

科目名	科目担当代表教員	ページ数
応用解剖学実習	池野 秀則	2
応用解剖学実習	池野 秀則	7
生理学実習	木村 一志	12
生理学実習	木村 一志	16
運動学Ⅱ	大森 圭	20
臨床心理学	松岡 紘史	25
高次脳機能障害学	太田 久晶	29
理学療法評価学Ⅱ	柴田 恵理子	33
理学療法評価学実習Ⅱ	佐藤 明紀	37
理学療法評価学実習Ⅱ	佐藤 明紀	42
運動器障害理学療法学	橋田 浩	47
運動器障害理学療法学実習	高田 雄一	52
運動器障害理学療法学実習	高田 雄一	56
義肢装具学	牧野 均	60
神経障害理学療法学	柴田 恵理子	65
内部障害理学療法学	佐藤 明紀	70
日常生活活動学実習	佐々木 幸子	75
日常生活活動学実習	佐々木 幸子	79
物理療法学実習	水本 淳	83
物理療法学実習	水本 淳	87
高齢者理学療法学	佐々木 幸子	91
地域理学療法学	水本 淳	95
臨床実習Ⅳ	池野 秀則	99
臨床実習Ⅴ	牧野 均	104
基礎化学	藤井 駿吾	109
リハビリテーション栄養学	佐々木 将太	114
整形外科学	田邊 芳恵	118
精神医学Ⅱ	瀧山 晃弘	123
内科学	水越 常德	128
医療統計学	加茂 憲一	133
理学療法研究Ⅰ	橋田 浩	137
理学療法管理学	横井 裕一郎	142
子どもの理学療法学	横井 裕一郎	147
徒手理学療法技術セミナー	大森 圭	152
徒手理学療法技術セミナー	大森 圭	157
臨床実習Ⅴ(総合)	池野 秀則	162
臨床実習Ⅵ(総合)	牧野 均	167

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		応用解剖学実習(1組)				ナンバリング	2207
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	2
担当教員	池野 秀則、橋田 浩						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、その他のすべてのディプロマ・ポリシーと関係している。 「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」「基礎解剖学実習」の発展的科目で形態学的側面のみでなく機能学的側面も学習する。さらに、「病態運動学」や「神経障害理学療法学・実習」とつながる科目である。							
授業の概要							
Ⅰ: 体表触診実習では学生相互に体表触知や関節運動などの基本を理解した上で、触診の技術を修得する。 Ⅱ: 中枢神経系(脳・脊髄)、末梢神経系の形態と機能について理解する。 Ⅲ: 呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、ヒトの発生・発達、内分泌系など内臓系の正常な形態と機能について理解する。							
到達目標							
・体表触診実習によって人体骨格の特徴を説明できる。 ・脳・脊髄(中枢神経系)と末梢神経系の形態と機能を関連づけ、錐体路から運動器官までの一連の流れを説明できる。 ・運動の記憶(特に小脳機能)について説明できる。 ・脳神経の機能について説明できる。 ・内臓系の基本的な形態と機能を関連づけて説明できる。							
授業の方法							
Ⅰについては、グループワークによる体表触知や関節運動を実技形式で行う。(全3回) Ⅱについては脳の標本等を活用しながら教科書の内容を立体的に理解できるようにすすめる。理解度を確認するため授業の最後に確認テストを実施する。(全7回) Ⅲについてはパワーポイントとハンドアウトを活用して理解しやすいように行う。(全4回) 最終回に札幌医大標本館にて標本の観察とスケッチを行う。							
ICT活用							
webアプリのvisible bodyなどを適宜活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

橋田は病院、クリニックにて理学療法士として勤務した経験を活かして触診を担当する。
池野は総合病院・介護老人保健施設にて理学療法士として勤務した経験を活かして神経系・内臓系の実習を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストを実施し、回収後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	肩甲骨、上肢の動きについて理解する。(橋田)	上肢の起始・停止について確認しておくこと。	上肢の筋について同定できるように復習しておくこと。
担当教員	橋田 浩		
第2回	下肢、骨盤の動きについて理解する。(橋田)	下肢の起始・停止について確認しておくこと。	下肢の筋について同定できるように復習しておくこと。
担当教員	橋田 浩		
第3回	体幹の動きについて理解する。人体の動き全体におけるまとめ及び総合評価をおこなう。(橋田)	体幹筋の起始・停止について確認しておくこと。	体幹筋について同定できるように復習しておくこと。
担当教員	橋田 浩		
第4回	大脳皮質の全体像について理解する。(池野)	前頭葉・頭頂葉・側頭葉・後頭葉の役割について調べておくこと。	大脳皮質全体像を各葉の役割と関連づけて復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		

第5回	大脳皮質の全体像について理解する(池野)	前頭葉・頭頂葉・側頭葉・後頭葉の役割について調べておくこと。	大脳皮質全体像を各葉の役割と関連付けて復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
第6回	大脳辺縁系、大脳基底核の役割について理解する。(池野)	大脳辺縁系、大脳基底核の位置について調べておくこと。	大脳辺縁系、大脳基底核の役割について復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
第7回	脳幹、脳血管について理解する。(池野)	脳幹の構成、脳の動脈について調べておくこと。	脳幹、脳血管について復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
第8回	運動の記憶、大脳小脳連関について理解する。(池野)	小脳の働きについて調べておくこと。	小脳の働きについて復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
第9回	錐体路、錐体外路、脊髄について理解する。(池野)	遠心性伝導路について調べておくこと。	錐体路、錐体外路、脊髄について復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
第10回	脳神経、脊髄神経、自律神経について理解する。(池野)	末梢神経について調べておくこと。	脳神経、脊髄神経、自律神経について復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		

第11回	循環器系、呼吸器系について理解する。 (池野)	循環器系、呼吸器系の形態と機能について調べておくこと。	循環器系と呼吸器系の形態と機能について復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
第12回	消化器系①(消化管)、消化器系②(肝・胆・膵)、泌尿器系について理解する。 (池野)	消化器系①(消化管)、消化器系②(肝・胆・膵)、泌尿器系の形態と機能を調べておくこと。	消化器系①(消化管)、消化器系②(肝・胆・膵)、泌尿器系の形態と機能について復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
第13回	生殖系、血液系、免疫系、感覚器系について理解する。(池野)	生殖系、血液系、免疫系、感覚器系の形態と機能について調べておくこと。	生殖系、血液系、免疫系、感覚器系の形態と機能を復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
第14回	内分泌系、細胞、人体の発生について理解する。全体のまとめ及び総合評価を行う。 (池野)	内分泌系、細胞の形態と機能及び人体の発生について調べておくこと。	内分泌系、細胞の形態と機能及び人体の発生について復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
第15回	札幌医大標本館見学:病理標本の見学及びスケッチ(池野)	なし	標本館で見学したことについて復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Ⅰは20%(総合評価)、Ⅱは50%(理解度確認テストと総合評価)、Ⅲは30%(理解度確認テストと総合評価)を担当別に評価し、総合する。	

その他	0	なし
教科書		
病気がみえる(脳・神経) 尾上 尚志他 メディックメディア		
参考文献		
PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁監修 廣川書店 イラスト解剖学 松村譲児著 中外医学社 ネッター解剖学アトラス 相磯禎和訳 南江堂		
履修条件・留意事項等		
実習科目なので原則として欠席の場合は単位取得できない。		
備考欄		
I の体表触診実習においては、学生同士で身体を触るので、新型コロナウイルスの影響により、後期に延期する場合もある。延期する場合は事前に連絡する。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		応用解剖学実習(2組)				ナンバリング	2207
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	2
担当教員	池野 秀則、橋田 浩						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、その他のすべてのディプロマ・ポリシーと関係している。 「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」「基礎解剖学実習」の発展的科目で形態学的側面のみでなく機能学的側面も学習する。さらに、「病態運動学」や「神経障害理学療法学・実習」とつながる科目である。							
授業の概要							
I : 体表触診実習では学生相互に体表触知や関節運動などの基本を理解した上で、触診の技術を修得する。 II : 中枢神経系(脳・脊髄)、末梢神経系の形態と機能について理解する。 III : 呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、ヒトの発生・発達、内分泌系など内臓系の正常な形態と機能について理解する。							
到達目標							
・体表触診実習によって人体骨格の特徴を説明できる。 ・脳・脊髄(中枢神経系)と末梢神経系の形態と機能を関連づけ、錐体路から運動器官までの一連の流れを説明できる。 ・運動の記憶(特に小脳機能)について説明できる。 ・脳神経の機能について説明できる。 ・内臓系の基本的な形態と機能を関連づけて説明できる。							
授業の方法							
I については、グループワークによる体表触知や関節運動を実技形式で行う。(全3回) II については脳の標本等を活用しながら教科書の内容を立体的に理解できるようにすすめる。理解度を確認するため授業の最後に確認テストを実施する。(全7回) III についてはパワーポイントとハンドアウトを活用して理解しやすいように行う。(全4回) 札幌医大標本館にて標本の観察とスケッチを行う。							
ICT活用							
webアプリのvisible bodyなどを適宜活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

橋田は病院、クリニックにて理学療法士として勤務した経験を活かして触診を担当する。
池野は総合病院・介護老人保健施設にて理学療法士として勤務した経験を活かして神経系・内臓系の実習を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストを実施し、回収後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	肩甲骨、上肢の動きについて理解する。(橋田)	上肢の起始・停止について確認しておくこと。	上肢の筋について同定できるように復習しておくこと。
担当教員	橋田 浩		
第2回	下肢、骨盤の動きについて理解する。(橋田)	下肢の起始・停止について確認しておくこと。	下肢の筋について同定できるように復習しておくこと。
担当教員	橋田 浩		
第3回	体幹の動きについて理解する。人体の動き全体におけるまとめ及び総合評価をおこなう。(橋田)	体幹筋の起始・停止について確認しておくこと。	体幹筋について同定できるように復習しておくこと。
担当教員	橋田 浩		
第4回	神経系の基本要素を理解する。(池野)	ニューロンの形態を描けるようにしておくこと。	神経系の基本要素について復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		

第5回	大脳皮質の全体像について理解する。(池野)	前頭葉・頭頂葉・側頭葉・後頭葉の役割について調べておくこと。	大脳皮質全体像を各葉の役割と関連づけて復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
第6回	大脳辺縁系、大脳基底核の役割について理解する。(池野)	大脳辺縁系、大脳基底核の位置について調べておくこと。	大脳辺縁系、大脳基底核の役割について復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
第7回	脳幹、脳血管について理解する。(池野)	脳幹の構成、脳の動脈について調べておくこと。	脳幹、脳血管について復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
第8回	運動の記憶、大脳小脳連関について理解する。(池野)	小脳の働きについて調べておくこと。	小脳の働きについて復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
第9回	錐体路、錐体外路、脊髄について理解する。(池野)	遠心性伝導路について調べておくこと。	錐体路、錐体外路、脊髄について復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
第10回	脳神経、脊髄神経、自律神経について理解する。(池野)	末梢神経について調べておくこと。	脳神経、脊髄神経、自律神経について復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		

第11回	循環器系、呼吸器系について理解する。 (池野)	循環器系、呼吸器系の形態と機能について調べておくこと。	循環器系と呼吸器系の形態と機能について復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
第12回	消化器系①(消化管)、消化器系②(肝・胆・膵)、泌尿器系について理解する。 (池野)	消化器系①(消化管)、消化器系②(肝・胆・膵)、泌尿器系の形態と機能を調べておくこと。	消化器系①(消化管)、消化器系②(肝・胆・膵)、泌尿器系の形態と機能について復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
第13回	生殖系、血液系、免疫系、感覚器系について理解する。 (池野)	生殖系、血液系、免疫系、感覚器系の形態と機能について調べておくこと。	生殖系、血液系、免疫系、感覚器系の形態と機能を復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
第14回	内分泌系、細胞、人体の発生について理解する。 全体のまとめ及び総合評価を行う。 (池野)	内分泌系、細胞の形態と機能及び人体の発生について調べておくこと。	内分泌系、細胞の形態と機能及び人体の発生について復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
第15回	札幌医大標本館見学:病理標本の見学及びスケッチ(池野)	なし	標本館で見学したことについて復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Ⅰは20%(総合評価)、Ⅱは50%(理解度確認テストおよび総合評価)、Ⅲは30%(理解度確認テストおよび総合評価)を担当別に評価し、総合する。	

その他	0	なし
教科書		
病気がみえる(脳・神経) 尾上 尚志他 メディックメディア		
参考文献		
PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁監修 廣川書店 イラスト解剖学 松村譲児著 中外医学社 ネッター解剖学アトラス 相磯禎和訳 南江堂		
履修条件・留意事項等		
実習科目なので原則として欠席の場合は単位取得できない。		
備考欄		
I の体表触診実習においては、学生同士で身体を触るので、新型コロナウイルスの影響により、後期に延期する場合もある。延期する場合は事前に連絡する。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		生理学実習(1組)				ナンバリング	2214
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	1
担当教員	木村 一志、松田 直樹、南部 路治						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」こととも関連する。生理学I、II、IIIと関連し、理学療法研究I、IIの基礎となる。							
授業の概要							
生理学の講義で得た知識をもとに、筋収縮、筋電図、呼吸、循環、感覚(体性感覚、視覚、聴覚)、血液などの測定・観察項目について16名程度を1グループとして実習を行い、人体の生理について理解を深める。							
到達目標							
実験を行うことにより人体の生理機能を実感する。 実験を通じて人体の構造と機能をより深く理解し、実践・応用、説明ができる。 実験により得られたデータを適切に解析・解釈し、それを基に適切なレポートを作成できる。							
授業の方法							
実習前課題を課す。 実験の目的・方法については実習ガイドによる説明を行い、実験手技についてはデモンストレーションを行う。毎回、異なるテーマの実験を行う。毎回、実験後に実験目的、内容、実験結果および実験結果の解析・解釈をまとめたレポートを作成する。全員が授業計画通り全ての実験を行うが、グループごとに行う実験の順番は異なる。詳細は生理学実習ガイドに記載する。							
ICT活用							
一部の実習項目については、実習で使用した資料をWebで公開し、レポート作成への活用を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

木村: 該当なし
 松田: 理学療法士として勤務した経験を活かして、筋電図の実習の指導を行う。
 南部: 理学療法士として勤務した経験を活かして、循環・呼吸の実習の指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしてレポートにコメントを付して返却します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 実習ガイドを配布し、実験項目と内容の説明を行うとともにレポートの作成法や評価のポイントについて説明する。実習グループ分け、実習室使用のルール、注意事項などについてガイダンスを行う。 木村: 全体、感覚、血液について説明を行う。 松田: 上肢・下肢表面筋電図について説明を行う。 南部: 心電図、血圧、呼吸機能について説明を行う。	なし	なし
担当教員	木村 一志、松田 直樹、南部 路治		
第2回	筋電図1: 上肢の表面筋電図の記録、運動神経伝導速度の測定、データ整理とレポート作成 ・肘関節屈曲・伸展運動時の筋電図の記録、力と筋電図の大きさの関係、関節角度による筋活動の変化を考察する。 ・刺激部位を変化させることで得られた筋電波形から運動神経伝導速度を算出する。神経伝導速度から末梢神経の特性と速度に影響する要因を学習する。	実習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	期限内にレポートを作成し、提出すること。(240分)
担当教員	木村 一志、松田 直樹、南部 路治		
第3回	筋電図2: 下肢の表面筋電図と誘発筋電図の記録、データ整理とレポート作成 ・立ち上がり動作、バランス運動時の筋電図の記録、スピードと筋電図の大きさの関係、荷重量による筋活動の変化を考察する。 ・下肢筋支配の神経を電気刺激し、M波・H波を記録する。刺激の強さとM波・H波の振幅の変化を解析することで、波形の出現要因と脊髄反射機構を学習する。	実習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	期限内にレポートを作成し、提出すること。(240分)
担当教員	木村 一志、松田 直樹、南部 路治		
第4回	皮膚感覚: 二点識別閾(2点刺激閾)の測定、データ整理とレポート作成 先端にナイロンテグスを取り付けたデバイダーを用い、人体各部の皮膚上に加えた2点刺激閾を測定する。 安静時に測定した人体各部の2点刺激閾に及ぼす運動(踏み台昇降運動)の影響を調べる。	実習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	期限内にレポートを作成し、提出すること。(240分)
担当教員	木村 一志、松田 直樹、南部 路治		

第5回	視覚・聴覚:網膜上の盲点の位置測定、気導・骨導聴力の測定、データ整理、レポート作成 左目について盲点の存在を確認し、盲点補完作用の意義を考える。 錯視図を参考に視覚のあいまいさの理由を考える。網膜の中心(中心窩)から盲点までの距離を推定する。 気導・骨導の聴力測定を行い、気導聴力と骨導聴力の聴覚伝導路の違いを確認する。 聴力レベルと周波数及び年齢との関係を考察する。	実習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	期限内にレポートを作成し、提出すること。(240分)
担当教員	木村 一志、松田 直樹、南部 路治		
第6回	心電図・血圧:正常心電図の導出記録、血圧測定、データ整理とレポート作成 肢導出と胸部導出による心電図の記録を行う。 心電図をP、QRS、T波について潜時振幅を測定する。 測定した心電図記録を用いて電気軸を求める。 聴診法による血圧測定の原理を理解する。 姿勢変換後の経時的な血圧測定を行い、重力が血圧変動に及ぼす影響について考察する。	実習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	期限内にレポートを作成し、提出すること。(240分)
担当教員	木村 一志、松田 直樹、南部 路治		
第7回	呼吸機能:スパイログラムの記録、運動時の呼吸数・血圧を測定、データ整理とレポート作成 スパイロメータを用い、スパイログラム(肺気量曲線)を記録する。 背臥位と座位でスパイログラムを記録し、各測定項目の値が姿勢によって異なる理由について考察する。 中等度運動時の呼吸数・血圧測定を行い、運動負荷による呼吸・循環機能の変化について考察する。	実習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	期限内にレポートを作成し、提出すること。(240分)
担当教員	木村 一志、松田 直樹、南部 路治		
第8回	血液:血液塗抹標本の作製、血球と骨格筋標本の観察・スケッチとレポート作成 血液塗抹標本作製し、顕微鏡で血球を観察する。 各血球(赤血球、好中球、好酸球、好塩基球、単球、リンパ球)を区別し、スケッチする。 各白血球(好中球、好酸球、好塩基球、単球、リンパ球)が全白血球に占める比率を求める。 骨格筋標本を観察し、筋紡錘をスケッチする。	実習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分) 全ての実習内容について復習しておくこと。(180分)	期限内にレポートを作成し、提出すること。(240分)
担当教員	木村 一志、松田 直樹、南部 路治		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習前課題。実習レポート。実習参加態度。全ての実験と試験に参加し、全ての課題とレポートを提出しないと単位を認定しない。	
その他	0		
教科書			

生理学実習ガイドを配布する。

参考文献

新訂生理学実習書、日本生理学会編、南江堂
コメディカルのための生理学実習ノート、杉春夫著、南江堂
生理学実習NAVI、大橋敦子監修、医歯薬出版
生理学I、II、IIIの授業で使用了教科書

履修条件・留意事項等

白衣、ネームプレート、実習靴を必ず着用。
実習に積極的に参加すること。
遅刻・欠席は厳禁。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		生理学実習(2組)				ナンバリング	2214
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	1
担当教員	木村 一志、松田 直樹、南部 路治						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」こととも関連する。生理学I、II、IIIと関連し、理学療法研究I、IIの基礎となる。							
授業の概要							
生理学の講義で得た知識をもとに、筋収縮、筋電図、呼吸、循環、感覚(体性感覚、視覚、聴覚)、血液などの測定・観察項目について16名程度を1グループとして実習を行い、人体の生理について理解を深める。							
到達目標							
実験を行うことにより人体の生理機能を実感する。 実験を通じて人体の構造と機能をより深く理解し、実践・応用、説明ができる。 実験により得られたデータを適切に解析・解釈し、それを基に適切なレポートを作成できる。							
授業の方法							
実習前課題を課す。 実験の目的・方法については実習ガイドによる説明を行い、実験手技についてはデモンストレーションを行う。毎回、異なるテーマの実験を行う。毎回、実験後に実験目的、内容、実験結果および実験結果の解析・解釈をまとめたレポートを作成する。全員が授業計画通り全ての実験を行うが、グループごとに行う実験の順番は異なる。詳細は生理学実習ガイドに記載する。							
ICT活用							
一部の実習項目については、実習で使用した資料をWebで公開し、レポート作成への活用を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

木村:該当なし
 松田:理学療法士として勤務した経験を活かして、筋電図の実習の指導を行う。
 南部:理学療法士として勤務した経験を活かして、循環・呼吸の実習の指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしてレポートにコメントを付して返却します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	ガイダンス 実習ガイドを配布し、実験項目と内容の説明を行うとともにレポートの作成法や評価のポイントについて説明する。実習グループ分け、実習室使用のルール、注意事項などについてガイダンスを行う。	なし	なし
担当教員	木村 一志、松田 直樹、南部 路治		
第2回	筋電図1:上肢の表面筋電図の記録、運動神経伝導速度の測定、データ整理とレポート作成 ・肘関節屈曲・伸展運動時の筋電図の記録、力と筋電図の大きさの関係、関節角度による筋活動の変化を考察する。 ・刺激部位を変化させることで得られた筋電波形から運動神経伝導速度を算出する。神経伝導速度から末梢神経の特性と速度に影響する要因を学習する。	実習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	期限内にレポートを作成し、提出すること。(240分)
担当教員	木村 一志、松田 直樹、南部 路治		
第3回	筋電図2:下肢の表面筋電図と誘発筋電図の記録、データ整理とレポート作成 ・立ち上がり動作、バランス運動時の筋電図の記録、スピードと筋電図の大きさの関係、荷重量による筋活動の変化を考察する。 ・下肢筋支配の神経を電気刺激し、M波・H波を記録する。刺激の強さとM波・H波の振幅の変化を解析することで、波形の出現要因と脊髄反射機構を学習する。	実習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	期限内にレポートを作成し、提出すること。(240分)
担当教員	木村 一志、松田 直樹、南部 路治		
第4回	皮膚感覚:二点識別閾(2点刺激閾)の測定、データ整理とレポート作成 先端にナイロンテグスを取り付けたデバイダーを用い、人体各部の皮膚上に加えた2点刺激閾を測定する。安静時に測定した人体各部の2点刺激閾に及ぼす運動(踏み台昇降運動)の影響を調べる。	実習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	期限内にレポートを作成し、提出すること。(240分)
担当教員	木村 一志、松田 直樹、南部 路治		

第5回	視覚・聴覚:網膜上の盲点の位置測定、気導・骨導聴力の測定、データ整理、レポート作成 左目について盲点の存在を確認し、盲点補完作用の意義を考える。 錯視図を参考に視覚のあいまいさの理由を考える。網膜の中心(中心窩)から盲点までの距離を推定する。 気導・骨導の聴力測定を行い、気導聴力と骨導聴力の聴覚伝導路の違いを確認する。 聴力レベルと周波数及び年齢との関係を考察する。	実習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	期限内にレポートを作成し、提出すること。(240分)
担当教員	木村 一志、松田 直樹、南部 路治		
第6回	心電図・血圧:正常心電図の導出記録、血圧測定、データ整理とレポート作成 肢導出と胸部導出による心電図の記録を行う。 心電図をP, QRS、T波について潜時振幅を測定する。 測定した心電図記録を用いて電気軸を求める。	実習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	期限内にレポートを作成し、提出すること。(240分)
担当教員	木村 一志、松田 直樹、南部 路治		
第7回	呼吸機能:スパイログラムの記録、運動時の呼吸数・血圧を測定、データ整理とレポート作成 スパイロメータを用い、スパイログラム(肺気量曲線)を記録する。 背臥位と座位でスパイログラムを記録し、各測定項目の値が姿勢によって異なる理由について考察する。 中等度運動時の呼吸数・血圧測定を行い、運動負荷による呼吸・循環機能の変化について考察する。	実習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	期限内にレポートを作成し、提出すること。(240分)
担当教員	木村 一志、松田 直樹、南部 路治		
第8回	血液:血液塗抹標本の作製、血球と骨格筋標本の観察・スケッチとレポート作成 血液塗抹標本作製し、顕微鏡で血球を観察する。 各血球(赤血球、好中球、好酸球、好塩基球、単球、リンパ球)を区別し、スケッチする。 各白血球(好中球、好酸球、好塩基球、単球、リンパ球)が全白血球に占める比率を求める。 骨格筋標本を観察し、筋紡錘をスケッチする。	実習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分) 全ての実習内容について復習しておくこと。(180分)	期限内にレポートを作成し、提出すること。(240分)
担当教員	木村 一志、松田 直樹、南部 路治		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習前課題。実習レポート。実習参加態度。全ての実験と試験に参加し、全ての課題とレポートを提出しないと単位を認定しない。	
その他	0		
教科書			

生理学実習ガイドを配布する。

参考文献

新訂生理学実習書、日本生理学会編、南江堂
コメディカルのための生理学実習ノート、杉春夫著、南江堂
生理学実習NAVI、大橋敦子監修、医歯薬出版
生理学I、II、IIIの授業で使用了教科書

履修条件・留意事項等

白衣、ネームプレート、実習靴を必ず着用。
実習に積極的に参加すること。
遅刻・欠席は厳禁。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		運動学Ⅱ				ナンバリング	2227
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	大森 圭、橋田 浩、金子 翔拓						
授業の位置づけ							
・理学療法、作業療法を実施するための専門的知識・技術を身につける科目である。 ・「運動学Ⅰ」と関連し「運動学実習」の基礎となる。							
授業の概要							
運動学における動作の解析について、三次元動作分析を中心にバイオメカニクスを基礎から学ぶ。特に重心、床反力、床反力作用点、関節モーメントの理解を深め、リハビリテーションの臨床動作観察の基礎を学ぶ。また、「運動学Ⅰ」で学んだ知識に加えてより専門的な四肢、脊柱の各論を学ぶ。							
到達目標							
・テコおよび重心について説明できる。 ・床反力、床反力作用点について説明できる。 ・関節モーメントと筋活動について説明できる。 ・歩行のバイオメカニクスを説明できる。 ・四肢の運動学各論を説明できる。 ・脊柱の運動学各論を説明できる。							
授業の方法							
パワーポイント、印刷資料を活用しながら講義形式で行う。 確認テストを行い、フィードバックとして確認テストの解説を行う。							
ICT活用							
講義は状況に応じてオンライン授業で行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

出席と理解度確認を兼ねて小テストを行い、回収後に解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	身体運動のバイオメカニクス①(大森):力の合成と分解および生体におけるテコについて理解する	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第2回	身体運動のバイオメカニクス②(大森):重心の求め方および速度、加速度について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第3回	身体運動のバイオメカニクス③(大森):床反力と重心加速度について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第4回	身体運動のバイオメカニクス④(大森):床反力作用点(COP)とは何か理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		

第5回	身体運動のバイオメカニクス⑤(大森):関節モーメントのパワーと筋活動について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第6回	身体運動のバイオメカニクス⑥(大森):立ち上がりのバイオ メカニクスについて理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第7回	身体運動のバイオメカニクス⑦(大森):歩き始めのバイオ メカニクスについて理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第8回	身体運動のバイオメカニクス⑧(大森):歩行のバイオメカ ニクス1 重心と床反力作用点について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第9回	身体運動のバイオメカニクス⑨(大森):歩行のバイオメカ ニクス2 重心の動きを滑らかにする機能について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第10回	身体運動のバイオメカニクス⑩(大森):歩行のバイオメカ ニクス3 歩行の観察-OGIGの方法について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		

第11回	運動学各論①(橋田):下肢の運動学(股関節、膝関節、足関節)について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	橋田 浩		
第12回	運動学各論②(橋田):脊柱の運動学(顎関節、頸椎、胸椎)について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	橋田 浩		
第13回	運動学各論③(橋田):脊柱の運動学(腰椎、骨盤)について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	橋田 浩		
第14回	運動学各論④(金子):上肢の運動学(肘関節)について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第15回	運動学各論⑤(金子):上肢の運動学(手および手指)について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	金子 翔拓		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	復習小テスト、授業参加態度	

その他	0	なし
教科書		
基礎バイオメカニクス第2版/山本澄子 他 著/医歯薬出版株式会社 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版/Donald A. Neumann/医歯薬出版株式会社		
参考文献		
基礎運動学 第6版/中村隆一 他 著/医歯薬出版株式会社 観察による歩行分析/Kristen Gotz-Neumann著 月城慶一 他 訳/医学書院		
履修条件・留意事項等		
特になし		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		臨床心理学				ナンバリング	2338
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 紘史						
授業の位置づけ							
理学療法学科のディプロマ・ポリシー「理学療法士としての臨床場面や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」および作業療法学科のディプロマ・ポリシー「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」と関係する科目である。							
授業の概要							
臨床心理学は、さまざまな問題の理解と解決に心理的要因が大きく関与していると思われる個人を心理学的な立場から理解し、問題解決を図ろうとする学問である。臨床心理学を支える理論にはさまざまなものがあるが、近年は認知行動的な立場から問題を理解し解決を図る行動理論に基づく考え方が主流となっている。本講義では、臨床心理学の基本的な考え方を学ぶとともに、行動理論による問題の理解と解決方法を理解する。							
到達目標							
1. 医療の中での臨床心理学の必要性について説明できる。 2. 代表的な臨床心理学的アセスメントの方法について説明できる。 3. 代表的な心理療法について説明できる。 4. 行動理論の代表的な基礎理論を説明できる。 5. 行動理論の代表的なアプローチを説明できる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。 理解度確認テストを実施する(8回)。							
ICT活用							
google formsを用いた双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

医療機関での臨床心理学の実戦経験を講義におりまぜながら、臨床心理学を用いた患者理解・対応について講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストの解答をフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	臨床心理学とは 臨床心理学で対象となる問題行動や不適応症状を学習するとともに、どのような領域で臨床心理学が利用されているかを理解する。	参考文献を中心に臨床心理学の必要性について考えておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行うこと。(120分)
担当教員			
第2回	アセスメント 臨床心理学で用いられるアセスメントについて理解する	参考文献を中心に臨床心理学で用いられるアセスメントについて予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行うこと。特に、国家試験の過去問については十分復習すること。(120分)
担当教員			
第3回	臨床心理学の諸理論 臨床心理学を代表する、精神力動的理論、人間性心理学について学び、それぞれの理論的立場の異動について理解する。	参考文献を中心に臨床心理学で用いられる心理療法(行動療法以外)について予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行うこと。特に、国家試験の過去問については十分復習すること。(120分)
担当教員			
第4回	行動理論:学習理論 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、問題行動の理解の仕方の基礎となる学習理論について理解する。	参考文献を中心に学習理論について予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行うこと。(120分)
担当教員			

第5回	行動理論:機能分析 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論の アプローチの中で、問題行動の理解の仕方の1つである機 能分析を理解する。	参考文献を中心に機能分析に ついて予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行う こと。(120分)
担当教員			
第6回	行動理論:行動のコントロール 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論の アプローチの中で、行動のコントロールに関するアプ ローチを理解する。	参考文献を中心に行動のコン ロールの方法について予習して おくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行う こと。(120分)
担当教員			
第7回	行動理論:認知のコントロール 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論の アプローチの中で、認知のコントロールに関するアプ ローチを理解する。	参考文献を中心に認知のコン ロールの方法について予習して おくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行う こと。(120分)
担当教員			
第8回	行動理論:気分・感情のコントロール 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論の アプローチの中で、気分・感情のコントロールに関するア プローチを理解する。	参考文献を中心に気分・感情の コントロールの方法について予 習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行う こと。(120分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験を実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	レポート(60%) 理解度確認テスト(40%)	
その他	0	なし	
教科書			

なし

参考文献

リハビリシク 心理・臨床心理学／内山 靖他編／医歯薬出版株式会社
実践家のための認知行動療法テクニックガイド／鈴木伸一他／北大路書房
認知行動療法事典／日本認知・行動療法学会編／丸善出版

履修条件・留意事項等

特になし

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法評価学					
科目名		高次脳機能障害学				ナンバリング	3450
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	太田 久晶						
授業の位置づけ							
理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を修得するための科目である。「解剖学Ⅰ」や「解剖学実習」と関連し、「神経障害理学療法学」の基礎となる。							
授業の概要							
大脳半球損傷後の患者において、運動機能や感覚機能に低下が生じるのみならず、高次脳機能障害も伴う場合がある。そのため、理学療法士がそうした患者に対して、円滑に評価および治療介入を行うためには、患者の示す高次脳機能障害の症状特性について知識を有する必要がある。本講義では、こうした症状の特徴および、その責任病巣について紹介するのみならず、評価方法や頭部画像の読影のポイント、高次脳機能障害に対するリハビリテーションの考え方について学習する。							
到達目標							
1. 高次脳機能障害の各症状について説明することができる。 2. 高次脳機能障害の各症状に対する評価方法について述べることができる。 3. 検査結果から症状の特徴を説明することができる。 4. 頭部のCT画像やMRIから病巣部位を説明することができる。 5. 脳の損傷部位から起こりうる高次脳機能障害を推定できる。 6. 高次脳機能障害に対する基本的な治療、介入方法について述べることができる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物（ハンドアウト）のほか、視聴覚教材（DVD）を活用しながら、講義形式で進める。 学習内容の理解度を確認するために、2回目，4回目，6回目の講義時間内に確認テスト（計3回）を実施する。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

脳神経外科病院や総合病院での作業療法士の勤務経験があり、脳損傷後の高次脳機能障害およびそれに対するリハビリテーションについて幅広い知識を有している。この経験を生かして、高次脳機能障害学の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストについては、解答の解説を行います。
確認テストに関しても、解答を説明します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・高次脳機能障害を学ぶための基礎知識 ・高次脳機能障害を理解するための脳解剖、頭部画像のみかた、利き手と大脳機能の側性化との関係、病因からみた症状の特徴、評価の進め方について学習する。 ・視空間認知障害 ・半側空間無視、および構成障害の定義と症状の特徴、評価方法、病巣部位について学習する。	教科書のP1-20, 157-178, 193-185を読んでおくこと。(90分)	講義資料をもとに復習をすること。(90分)
担当教員			
第2回	・半側身体に対する認識障害 ・片麻痺に対する病態失認、半側身体失認、身体パラフレニアなど、病巣対側身体に対する認識の障害についての定義と評価方法について学習する。 ・頭頂葉機能障害 ・Bálint症候群、ゲルストマン症候群、視覚運動失調の各症状に対する定義および、評価方法について学習する。 ・理解度確認テスト1	教科書のP179-192を読んでおくこと。(90分)	講義資料をもとに復習をすること。(90分)
担当教員			
第3回	・失語・失読・失書 ・失語症状を理解するための基礎知識、症状の定義と特徴、評価および鑑別方法に加え、症状に対応した責任病巣について学習する	教科書のP21-58を読んでおくこと。(90分)	講義資料をもとに復習をすること。(90分)
担当教員			
第4回	・失認 ・失認の定義、視覚情報の処理過程にもとづいた視覚失認の定義と症状の区分、および評価方法について学習する。また、視覚対象に基づいた視覚失認の分類、視覚以外の触覚、聴覚における失認についても学習する。 ・理解度確認テスト2	教科書のP111-148を読んでおくこと。(90分)	講義資料をもとに復習をすること。(90分)
担当教員			

第5回	・健忘（記憶障害）と認知症 記憶の処理過程、記憶の分類方法、疾患または、損傷部位に対応した記憶障害の特徴、認知症の原因と特徴、記憶障害に対する検査方法について学習する。	教科書のP206-230を読んでおくこと。(90分)	講義資料をもとに復習をすること。(90分)
担当教員			
第6回	・失行、行為および行動障害 失行症の症状分類とそのメカニズム、脳梁離断症状や前頭葉症状として認められる行為、行動の障害の特徴およびそのメカニズム、これらに対する検査方法について学習する。 ・理解度確認テスト 3	教科書のP63-101を読んでおくこと。(90分)	講義資料をもとに復習をすること。(90分)
担当教員			
第7回	・頭部外傷 損傷部位やその特徴について学習する。また、損傷に伴う高次機能障害の特徴を学習する。 ・遂行機能障害・注意障害 注意の転換、注意の持続性、注意の配分、セットの保持、選択性、流暢性、decision makingなどについて、学習する。	教科書のP281-291, 201-205を読んでおくこと。(90分)	講義資料をもとに復習をすること。(90分)
担当教員			
第8回	・知的機能検査 代表的な知的機能検査である、HDS-R、MMS、WAIS-Ⅲ、レーヴン色彩マトリックス検査、Kohs立方体テストの特徴と結果の解釈の方法について学習する。 ・高次脳機能障害に対するリハビリテーション 高次脳機能障害に対する基本的な治療、介入方法について学習する。 ・確認テスト	教科書のP5-6及び各症状に対するリハビリテーションに関する項目を読んでおくこと。(90分)	講義資料をもとに復習をすること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・確認テストを実施する(70%) ・理解度確認テスト(3回)の成績は、最終成績の30%に当てる。	
その他	0	特になし	
教科書			

高次脳機能障害学 第3版／石合純夫 著／医歯薬出版

参考文献

CR BOOKS 高次脳機能障害のリハビリテーションVer.3／武田克彦、三村 將、渡邊 修 編／医歯薬出版
実践 高次脳機能障害のみかた／小林俊輔 編／中外医学社

履修条件・留意事項等

「解剖学Ⅰ」や「応用解剖学実習」の単位を取得していること。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法評価学					
科目名		理学療法評価学Ⅱ				ナンバリング	3443
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている」、「理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている」とことと特に関係がある科目である。多岐にわたる理学療法評価のなかから、主に神経症候学的検査及び姿勢・動作評価に関連する項目を扱うものである。本科目は、「解剖学Ⅰ」「生理学Ⅰ」など多くの専門基礎科目全般と関連し、「理学療法評価学実習Ⅰ」、「神経障害理学療法学」などの基礎となる。							
授業の概要							
理学療法評価とは、様々な検査・測定を通して得られた情報を統合・解釈して対象者の障害像を明らかにしていく過程である。この科目では、評価の基本的技術のうち主に神経症候及び姿勢・動作の評価に必要な理論と技術を学ぶ。特に、検査・測定技術の背景にある基礎理論を十分に理解することを求めたい。							
到達目標							
1. 理学療法評価の概念・意義および目的を理解できる 2. 理学療法評価の基本原則を理解できる 3. 評価に必要な検査・測定の目的と方法を理解できる 4. 評価技術の基盤となる理論的背景が理解できる							
授業の方法							
教科書、スライド、配布印刷物を用いて、講義形式ですすめる。 本講義内容を理解するためには、その基礎となる解剖学・生理学・運動学的知識が必要である。これらの理解を促すため、毎講義ごとに理解度確認の課題を行う。 学生は十分に予習をして講義に望むことが望ましい。							
ICT活用							
予習課題の達成度確認のため、学生と教員相互にウェブ上でのデータ整理を活用する。 必要に応じてオンライン・オンデマンド等の対応を検討する。							
実務経験のある教員の教育内容							

担当教員は理学療法士として勤務した経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして確認課題を回収後、課題の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	理学療法評価について:評価の意義、目的を学ぶ。本講義に必要な神経解剖学・神経生理学的知識を概説する。	教科書を事前に読んでおくこと(90分) 「総論」p13-25、「一般的評価事項」p27-38	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第2回	脳神経検査:脳神経障害を理解し、検査方法を学ぶ。	教科書の該当部分を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第3回	知覚検査:知覚とその障害を理解し、検査方法を学ぶ。	教科書の該当部分を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第4回	反射・筋緊張検査:それぞれの障害を理解し、検査方法を学ぶ。	教科書の該当部分を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		

第5回	協調性検査:協調性障害を理解し、その検査方法を学ぶ。	教科書の該当部分を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
第6回	バランス・姿勢反射検査:それぞれの障害を理解し、その検査方法を学ぶ。	教科書の該当部分を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
第7回	片麻痺機能検査, 高次脳機能検査:これらの検査について理解し、その検査方法を学ぶ。片麻痺機能検査についての歴史的背景と変遷について学ぶ。	教科書の該当部分を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
第8回	これまでの授業内容の理解度確認のため、まとめテストを行う。	これまでの授業内容を復習しておくこと(90分)	テスト内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめテスト(70%)、確認課題・授業参加態度(30%)	
その他	0		
教科書			

理学療法評価学, 松澤正, 江口勝彦(著), 金原出版
神経診察クローズアップ, 鈴木則宏(編), MEDICALVIEW

参考文献

神経症候学, 改訂第2版, 平山恵三(著), 文光堂
神経局在診断, 第6版, Peter Duus(著), 花北順哉(訳), 文光堂

履修条件・留意事項等

基礎的な解剖生理学的な用語については、皆さんがある程度理解しているものとして授業を進めることがあります。教科書の予習部位は事前にお伝えしますので、十分に準備してから授業に臨んでください。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法評価学					
科目名		理学療法評価学実習Ⅱ(1組)				ナンバリング	3447
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、松田 直樹						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」に対応する科目である。理学療法評価は、問診にはじまり、観察・検査・測定・統合・解釈へと続く一連の思考過程を習得する科目である。 なかでも、形態計測、関節可動域、筋力検査は理学療法士が行う重要な評価項目であり、「臨床実習Ⅲ」へ向けた専門分野の基礎となる基本的な専門的知識・技術を身につける。							
授業の概要							
理学療法評価は、解剖学、生理学、運動学などの形態・機能に関する基礎知識を基盤とし、検査・測定を行うことで、障害に対する原因や問題点を探索し、治療の方針を決定するために不可欠なものである。本科目では、形態測定、関節可動域測定および徒手筋力検査による、運動器に関わる評価を主に実習し、評価結果の解釈や問題点抽出までの過程を学ぶ。 実習では、学生間で理学療法士役と模擬患者役となり学習する。							
到達目標							
1. 障害特徴に合わせた身体構造・機能の基礎を理解できる。 2. 各評価内容を模擬患者役に適切に説明できる。 3. 各評価の目的と方法を正しく理解し、施行することができる。 4. 評価した結果を正しく記載し、その意義を理解することができる。							
授業の方法							
教員が評価の理論的な背景について解説し、デモンストレーションを行う。 その後学生同士で実技練習を行い、評価方法を学習する。 複数教員で巡回し、形態計測、関節可動域測定、徒手筋力検査の正確性・信頼性の向上に努める。							
ICT活用							
Google classroomを用いて課題やアンケートを用いて双方向授業を取り入れる。 必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。							
実務経験のある教員の教育内容							

佐藤、松田は理学療法士として医療機関での勤務と臨床研究を継続してきた経験を活かして、本実習を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の課題に対して、その都度、解説や補足説明を実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	イントロダクション 形態測定 四肢長と肢節長、および四肢周径の評価方法を学び、実践する。	教科書の形態測定を読んでおくこと。 必要時間:25分	形態測定の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	関節可動域測定(肩、肘、手、手指関節) 肩、肘、手、手指関節の関節可動域測定の評価方法を学び、実践する。	肩、肘、手、手指関節の解剖学や運動学の復習と、関節可動域測定の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	肩、肘、手、手指関節の関節可動域測定の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	関節可動域測定(股、膝、足、足趾関節) 股、膝、足、足趾関節の関節可動域測定の評価方法を学び、実践する。	股、膝、足、足趾関節の解剖学や運動学の復習と、関節可動域測定の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	股、膝、足、足趾関節の関節可動域測定の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第4回	関節可動域測定(頸部、肩甲帯、体幹) 頸部、肩甲帯、体幹の関節可動域測定の評価方法を学び、実践する。 復習:関節可動域測定、形態計測の一連の手技について再確認する	頸部、肩甲帯、体幹の解剖学や運動学の復習と、関節可動域測定の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	頸部、肩甲帯、体幹の関節可動域測定の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		

第5回	徒手筋力検査(肩、肘関節) 肩、肘関節の徒手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	肩、肘関節の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	肩、肘関節の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第6回	徒手筋力検査(手関節、手指) 手関節、手指の徒手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	手関節、手指の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	手関節、手指の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第7回	徒手筋力検査(股、膝関節) 股、膝関節の徒手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	股、膝関節の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	股、膝関節の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第8回	徒手筋力検査(足関節、足趾) 足関節、足趾の徒手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	足関節、足趾の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	足関節、足趾の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第9回	徒手筋力検査(頸部、肩甲帯、体幹) 頸部、肩甲帯、体幹の徒手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	頸部、肩甲帯、体幹の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	頸部、肩甲帯、体幹の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第10回	徒手筋力検査(脳神経支配筋) 脳神経支配筋の徒手筋力検査の方法を学び、実践する。 復習:徒手筋力検査法の一連の手技について再確認する	脳神経支配筋の解剖学、生理学および運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	脳神経支配筋の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分 手関節、手指の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		

第11回	まとめと実技試1 形態計測と関節可動域測定の方法と実践の確認をする。	形態計測と関節可動域測定の方法や方法を復習し、練習する。 必要時間:25分	形態計測と関節可動域測定の方法や方法を復習し、練習する。 必要事項:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第12回	まとめと実技試験2 徒手筋力検査の方法と実践の確認をする。	徒手筋力検査の目的や方法を復習し、練習する。 必要時間:25分	徒手筋力検査の目的や方法を復習し、練習する。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめと実技試験で臨床実習を終了できると考えられるレベルを合格とする。実習内の課題や参加態度等も考慮する。	
その他	0	なし	
教科書			
理学療法評価学:松澤正他/金原出版 新・徒手筋力検査法:Hislop他/協同医書出版			
参考文献			
理学療法評価学テキスト:細田多穂他/南江堂 臨床ROM:隈元庸夫他/ヒューマン・プレス			
履修条件・留意事項等			

本科目は、臨床実習の履修要件の1つとなる。
実技の際にはTシャツと短パン、必要器具を準備すること。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法評価学					
科目名		理学療法評価学実習Ⅱ（2組）				ナンバリング	3447
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、松田 直樹						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。（知識・技能）」に対応する科目である。理学療法評価は、問診にはじまり、観察・検査・測定・統合・解釈へと続く一連の思考過程を習得する科目である。なかでも、形態計測、関節可動域、筋力検査は理学療法士が行う重要な評価項目であり、「臨床実習Ⅲ」へ向けた専門分野の基礎となる基本的な専門的知識・技術を身につける。							
授業の概要							
理学療法評価は、解剖学、生理学、運動学などの形態・機能に関する基礎知識を基盤とし、検査・測定を行うことで、障害に対する原因や問題点を探索し、治療の方針を決定するために不可欠なものである。本科目では、形態測定、関節可動域測定および徒手筋力検査による、運動器に関わる評価を主に実習し、評価結果の解釈や問題点抽出までの過程を学ぶ。 実習では、学生間で理学療法士役と模擬患者役となり学習する。							
到達目標							
1. 障害特徴に合わせた身体構造・機能の基礎を理解できる。 2. 各評価内容を模擬患者役に適切に説明できる。 3. 各評価の目的と方法を正しく理解し、施行することができる。 4. 評価した結果を正しく記載し、その意義を理解することができる。							
授業の方法							
教員が評価の理論的な背景について解説し、デモンストレーションを行う。 その後学生同士で実技練習を行い、評価方法を学習する。 複数教員で巡回し、形態計測、関節可動域測定、徒手筋力検査の正確性・信頼性の向上に努める。							
ICT活用							
Google classroomを用いて課題やアンケートを用いて双方向授業を取り入れる。 必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。							
実務経験のある教員の教育内容							

佐藤、松田は理学療法士として医療機関での勤務と臨床研究を継続してきた経験を活かして、本実習を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の課題に対して、その都度、解説や補足説明を実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	イントロダクション 形態測定 四肢長と肢節長、および四肢周径の評価方法を学び、実践する。	教科書の形態測定を読んでおくこと。 必要時間:25分	形態測定の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	関節可動域測定(肩、肘、手、手指関節) 肩、肘、手、手指関節の関節可動域測定の評価方法を学び、実践する。	肩、肘、手、手指関節の解剖学や運動学の復習と、関節可動域測定の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	肩、肘、手、手指関節の関節可動域測定の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	関節可動域測定(股、膝、足、足趾関節) 股、膝、足、足趾関節の関節可動域測定の評価方法を学び、実践する。	股、膝、足、足趾関節の解剖学や運動学の復習と、関節可動域測定の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	股、膝、足、足趾関節の関節可動域測定の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第4回	関節可動域測定(頸部、肩甲帯、体幹) 頸部、肩甲帯、体幹の関節可動域測定の評価方法を学び、実践する。 復習:関節可動域測定、形態計測の一連の手技について再確認する	頸部、肩甲帯、体幹の解剖学や運動学の復習と、関節可動域測定の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	頸部、肩甲帯、体幹の関節可動域測定の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		

第5回	徒手筋力検査(肩、肘関節) 肩、肘関節の徒手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	肩、肘関節の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	肩、肘関節の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第6回	徒手筋力検査(手関節、手指) 手関節、手指の徒手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	手関節、手指の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	手関節、手指の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第7回	徒手筋力検査(股、膝関節) 股、膝関節の徒手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	股、膝関節の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	股、膝関節の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第8回	徒手筋力検査(足関節、足趾) 足関節、足趾の徒手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	足関節、足趾の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	足関節、足趾の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第9回	徒手筋力検査(頸部、肩甲帯、体幹) 頸部、肩甲帯、体幹の徒手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	頸部、肩甲帯、体幹の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	頸部、肩甲帯、体幹の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第10回	徒手筋力検査(脳神経支配筋) 脳神経支配筋の徒手筋力検査の方法を学び、実践する。 復習:徒手筋力検査法の一連の手技について再確認する	脳神経支配筋の解剖学、生理学および運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	脳神経支配筋の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分 手関節、手指の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		

第11回	まとめと実技試1 形態計測と関節可動域測定の方法と実践の確認をする。	形態計測と関節可動域測定の方法や方法を復習し、練習する。 必要時間:25分	形態計測と関節可動域測定の方法や方法を復習し、練習する。 必要事項:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第12回	まとめと実技試験2 徒手筋力検査の方法と実践の確認をする。	徒手筋力検査の目的や方法を復習し、練習する。 必要時間:25分	徒手筋力検査の目的や方法を復習し、練習する。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめと実技試験で臨床実習を終了できると考えられるレベルを合格とする。実習内の課題や参加態度等も考慮する。	
その他	0	なし	
教科書			
理学療法評価学:松澤正他/金原出版 新・徒手筋力検査法:Hislop他/協同医書出版			
参考文献			
理学療法評価学テキスト:細田多穂他/南江堂 臨床ROM:隈元庸夫他/ヒューマン・プレス			
履修条件・留意事項等			

本科目は、臨床実習の履修要件の1つとなる。
実技の際にはTシャツと短パン、必要器具を準備すること。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		運動器障害理学療法学				ナンバリング	3512
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	橋田 浩、牧野 均						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーにある「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につける(知識・技能)」ことと特にに関係のある科目である。また、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる(関心・意欲・態度)」ことも関係する。運動器疾患を運動学のおよび解剖学的に理解し、効果的な治療法を学ぶ。「整形外科」「基礎運動療法学」と関連し、「運動器障害理学療法学実習」や「臨床実習」の基礎となる。							
授業の概要							
筋・骨関節の運動器障害に対する理学療法について総合的・系統的に理解する。主な整形外科疾患について部位別、疾患別に病態の確認と、それによって生じる障害の評価や診断について理解する。また、運動療法を主体とした基本的な治療法について学習するとともに治療効果やリスク管理についても理解を深める							
到達目標							
1. 各々の運動器障害の評価において系統的に評価の進め方を説明できる。 2. 評価に基づいて障害像を把握し、説明できる。 3. 各種障害に対する適切な理学療法を選択でき、治療計画を立案できる							
授業の方法							
授業資料のPDFは事前にGoogleクラスルームに載せるので、教科書と併せて確認すること。授業はパワーポイントを用いて講義形式ですすめる。また、理解度の確認として小テストを実施する。授業に関する質問はGoogleクラスルームでのメールで対応する。							
ICT活用							
Googleのクラスルームを利用するのでスマートフォン等を持参する事。							
実務経験のある教員の教育内容							

病院での理学療法士としての実務経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

・授業での確認課題については、その授業内または次回授業で解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	総論 運動器障害の評価と理学療法 運動器障害に対する理学療法の評価・治療の原則を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第2回	機能障害の評価と理学療法、その治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第3回	脊椎・脊髄疾患の病態像、評価、治療手順の基本を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	牧野 均		
第4回	頸髄・脊髄損傷の病態像や評価、理学療法の治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	牧野 均		

第5回	頸椎疾患、腰部脊柱管狭窄症、腰痛の病態像、評価、理学療法の治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	牧野 均		
第6回	肩関節障害の病態像や評価、理学療法の治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第7回	関節リウマチの病態、評価、治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第8回	肘関節障害の評価と理学療法の治療手順を理解する 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第9回	大腿骨頸部骨折、変形性股関節症などの病態、評価、理学療法の治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第10回	膝関節周囲の骨折、変形性膝関節症などの病態、評価、理学療法の治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		

第11回	足関節周囲の骨折、足部変形などの病態、評価、理学療法の治療手順を理解する。(橋田) 【確認テスト:授業6回～10回より出題する】	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第12回	スポーツ障害・傷害～とくに上肢の病態、評価、理学療法の治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第13回	スポーツ障害・傷害～とくに下肢の病態、評価、理学療法の治療手順を理解する。火傷による関節拘縮予防の理学療法について理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第14回	末梢神経障害、腕神経叢麻痺、胸郭出口症候群の病態、評価、理学療法の治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第15回	運動器障害理学療法のまとめテストを行う。 【確認テスト:1回～14回より出題する】	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での課題確認実施内容(50%)とまとめテスト(50%)によって判断する	

その他	0	なし
教科書		
標準理学療法学 専門分野 骨関節理学療法学 編集:吉尾雅春・小柳琢磨 医学書院		
参考文献		
理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学 編集 加藤浩 MEDICAL VIEW 脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版 編集 岩崎 洋 文光堂		
履修条件・留意事項等		
定期試験は行わず、授業内の確認課題と確認テストで成績を評価するので欠席をしないこと。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		運動器障害理学療法学実習(2組)				ナンバリング	3514
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	1
担当教員	高田 雄一、牧野 均						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけ、理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につける(知識・技能)」と特に関係のある科目である。また「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」とも関係している。 整形外科学、基礎運動療法学、運動器障害理学療法学に関連して臨床実習Ⅳ・Ⅴ・Ⅵの基礎となる。							
授業の概要							
運動器に対する運動療法の基本的な技術を学生相互の実習を通して習得するとともに、障害例に対する評価・問題点の把握、治療手技の選択、治療プログラムの立案を系統的に実施できる能力を養う。							
到達目標							
1. 運動器障害に対する理学療法評価を理解できる。 2. 運動器障害に対する評価結果から問題点抽出までの一連の過程を理解できる。 3. 運動器障害に対する治療プログラム立案について理解できる。 4. 適切な治療方法の選択、基本的な治療手技について理解できる。 5. 術後のリスク管理を理解できる。							
授業の方法							
1. ペーパーペイシエントを用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。一連の過程をグループワークを基にまとめる。 2. パワーポイント、教科書を基に説明を行い、運動器疾患の評価、治療手技の実習を行う。							
ICT活用							
Google classroomを用いる。							
実務経験のある教員の教育内容							

高田は整形外科で理学療法士として勤務経験があり、現在も継続して整形外科疾患の理学療法に携わっている。その経験を活かして実習を担当する。牧野はせき損センターにおいて理学療法士として23年勤務した経験を活かして基礎運動療法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

1. 二人一組もしくは三人一組となり技術練習を行い、方法について確認、指導を行う。
2. 必要に応じてレポート課題を出して理解度を確認して、解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	神経筋促通手技 神経筋促通手技の基本手技の理解と応用を実習する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。(45分)
担当教員	牧野 均		
第2回	頸髄損傷・脊髄損傷のリハビリテーション① 脊髄・頸髄損傷の急性期から慢性期までの運動療法を実習する。 ペーパーペイシエント(脊損頸損急性期)を用いて理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P187-203。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(45分)
担当教員	牧野 均		
第3回	頸髄損傷・脊髄損傷のリハビリテーション② 脊髄・頸髄損傷の日常生活動作中心に実習する。 ペーパーペイシエント(脊損頸損慢性期)を用いて理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。 6回でグループでまとめたペーパーペイシエント課題を報告する。発表はパワーポイントを用いるものとして、資料をA3サマリーとして配布して説明を行う。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P187-203。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。ペーパーペイシエントに関する課題について、修正を行いサマリーを完成させる。(45分)
担当教員	牧野 均		
第4回	腰痛のリハビリテーション 腰痛症の運動療法を実習する。 ペーパーペイシエント(頸椎脊椎疾患)を用いて理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。 まとめのテストを行う(50分)	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P237-252。運動器障害理学療法学ⅡP21-44。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(45分)
担当教員	牧野 均		

第5回	上肢運動器障害に対する理学療法 肩関節を中心に実習する。ペーパーペイシエント(肩関節 周囲炎)を用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価 価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の 部分を確認しておくこと。骨関節 理学療法学P71-81,254-275。 運動器障害理学療法学ⅡP67- 106。(45分)	授業で行った実技について練習 しておくこと。ペーパーペイシ エントに関する課題のまとめを行 う。(45分)
担当教員	高田 雄一		
第6回	下肢運動器障害に対する理学療法① 股関節を中心に実習する。 ペーパーペイシエント(大腿骨頸部骨折)を用いて運動器 疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療 プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の 部分を確認しておくこと。骨関節 理学療法学P110-128。運動器 障害理学療法学ⅠP73-116。 (45分)	授業で行った実技について練習 しておくこと。ペーパーペイシ エントに関する課題のまとめを行 う。(45分)
担当教員	高田 雄一		
第7回	下肢運動器障害に対する理学療法② 膝関節、足関節を中心に実習する。 ペーパーペイシエント(変形性膝関節症)を用いて運動器 疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療 プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の 部分を確認しておくこと。骨関節 理学療法学P51-70,128-152。 運動器障害理学療法学ⅠP73- 116。運動器障害理学療法学Ⅱ P107-138。(45分)	授業で行った実技について練習 しておくこと。ペーパーペイシ エントに関する課題のまとめを行 う。(45分)
担当教員	高田 雄一		
第8回	5-7回でグループでまとめたペーパーペイシエント課題を 報告する。また質疑の復習を行う。 まとめのテストを行う(50分)	授業内容に関連する教科書の 部分を確認しておくこと。(45分)	授業で行った実技について練習 しておくこと。(45分)
担当教員	高田 雄一		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	授業開始時に行う確認テスト、授業での課題参加態度などを総合的に評価する。 まとめのテストは高田、牧野担当いずれも6割以上を合格とする。	
その他	0	なし	
教科書			

運動器障害理学療法学I・II /河村廣幸/羊土社
臨床運動学/小林麻衣,小島 悟/羊土社
骨関節理学療法学/吉尾雅春,福井勉,小柳磨毅/医学書院

参考文献

PNFマニュアル 改訂第3版 柳澤 健、乾 公美 南江堂
脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版 編集 岩崎洋 文光堂

履修条件・留意事項等

運動器疾患に関連する解剖学、運動学を復習して臨むこと。
運動器障害理学療法学や整形外科学の内容について予習、復習をして臨むこと。
授業へは積極的に参加すること。
分からない事柄については、質問等によってその日のうちに解決すること。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		運動器障害理学療法学実習(1組)				ナンバリング	3514
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	1
担当教員	高田 雄一、牧野 均						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけ、理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につける(知識・技能)」と特に関係のある科目である。また「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」とも関係している。 整形外科学、基礎運動療法学、運動器障害理学療法学に関連して臨床実習Ⅳ・Ⅴ・Ⅵの基礎となる。							
授業の概要							
運動器に対する運動療法の基本的な技術を学生相互の実習を通して習得するとともに、障害例に対する評価・問題点の把握、治療手技の選択、治療プログラムの立案を系統的に実施できる能力を養う。							
到達目標							
1. 運動器障害に対する理学療法評価を理解できる。 2. 運動器障害に対する評価結果から問題点抽出までの一連の過程を理解できる。 3. 運動器障害に対する治療プログラム立案について理解できる。 4. 適切な治療方法の選択、基本的な治療手技について理解できる。 5. 術後のリスク管理を理解できる。							
授業の方法							
1. ペーパーペイシエントを用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。一連の過程をグループワークを基にまとめる。 2. パワーポイント、教科書を基に説明を行い、運動器疾患の評価、治療手技の実習を行う。							
ICT活用							
Google classroomを用いる。							
実務経験のある教員の教育内容							

高田は整形外科で理学療法士として勤務経験があり、現在も継続して整形外科疾患の理学療法に携わっている。その経験を活かして実習を担当する。牧野はせき損センターにおいて理学療法士として23年勤務した経験を活かして基礎運動療法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

1. 二人一組もしくは三人一組となり技術練習を行い、方法について確認、指導を行う。
2. 必要に応じてレポート課題を出して理解度を確認して、解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	神経筋促通手技 神経筋促通手技の基本手技の理解と応用を実習する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。(45分)
担当教員	高田 雄一		
第2回	頸髄損傷・脊髄損傷のリハビリテーション① 脊髄・頸髄損傷の急性期から慢性期までの運動療法を実習する。 ペーパーペイシエント(脊損頸損急性期)を用いて理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P187-203。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(45分)
担当教員	牧野 均		
第3回	頸髄損傷・脊髄損傷のリハビリテーション② 脊髄・頸髄損傷の日常生活動作中心に実習する。 ペーパーペイシエント(脊損頸損慢性期)を用いて理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。 6回でグループでまとめたペーパーペイシエント課題を報告する。発表はパワーポイントを用いるものとして、資料をA3サマリーとして配布して説明を行う。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P187-203。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。ペーパーペイシエントに関する課題について、修正を行いサマリーを完成させる。(45分)
担当教員	牧野 均		
第4回	腰痛のリハビリテーション 腰痛症の運動療法を実習する。 ペーパーペイシエント(頸椎脊椎疾患)を用いて理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。 まとめのテストを行う(50分)	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P237-252。運動器障害理学療法学ⅡP21-44。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(45分)
担当教員	牧野 均		

第5回	上肢運動器障害に対する理学療法 肩関節を中心に実習する。ペーパーペイシエント(肩関節 周囲炎)を用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の 部分を確認しておくこと。骨関節 理学療法学P71-81,254-275。 運動器障害理学療法学ⅡP67- 106。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(45分)
担当教員	高田 雄一		
第6回	下肢運動器障害に対する理学療法① 股関節を中心に実習する。 ペーパーペイシエント(大腿骨頸部骨折)を用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の 部分を確認しておくこと。骨関節 理学療法学P110-128。運動器 障害理学療法学ⅠP73-116。 (45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(45分)
担当教員	高田 雄一		
第7回	下肢運動器障害に対する理学療法② 膝関節、足関節を中心に実習する。 ペーパーペイシエント(変形性膝関節症)を用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の 部分を確認しておくこと。骨関節 理学療法学P51-70,128-152。 運動器障害理学療法学ⅠP73- 116。運動器障害理学療法学Ⅱ P107-138。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(45分)
担当教員	高田 雄一		
第8回	5-7回でグループでまとめたペーパーペイシエント課題を報告する。また質疑の復習を行う。 まとめのテストを行う(50分)	授業内容に関連する教科書の 部分を確認しておくこと。(45分)	授業で行った実技について練習しておくこと。(45分)
担当教員	高田 雄一		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業開始時に行う確認テスト、授業での課題参加態度などを総合的に評価する。 まとめのテストは高田、牧野担当いずれも6割以上を合格とする。	
その他	0	なし	
教科書			

運動器障害理学療法学I・II / 河村廣幸 / 羊土社
臨床運動学 / 小林麻衣, 小島 悟 / 羊土社
骨関節理学療法学 / 吉尾雅春, 福井勉, 小柳磨毅 / 医学書院

参考文献

PNFマニュアル 改訂第3版 柳澤 健、乾 公美 南江堂
脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版 編集 岩崎洋 文光堂

履修条件・留意事項等

運動器疾患に関連する解剖学、運動学を復習して臨むこと。
運動器障害理学療法学や整形外科学の内容について予習、復習をして臨むこと。
授業へは積極的に参加すること。
分からない事柄については、質問等によってその日のうちに解決すること。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		義肢装具学				ナンバリング	3508
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	牧野 均						
授業の位置づけ							
運動器疾患や中枢神経疾患を運動学的に理解し、機能障害に対する効果的な装具や義肢を用いることにより活動能力を高める治療法を学ぶための科目である。「整形外科学」「運動器障害理学療法学」「神経障害理学療法学」「発達障害理学療法学」「日常生活活動学」等多くの科目と関連し、「運動器障害理学療法学実習」「神経障害理学療法学実習」「発達障害理学療法学実習」「日常生活活動学実習」や「臨床実習」等多くの科目の基礎となる。							
授業の概要							
義肢、装具および自助具の基本的知識について学習する。装具学では、部位別および機能別装具と装着目的、適合判定について学習する。義肢学では、歴史、切断術および股義足、大腿義足、下腿義足などの各種義足と上腕・前腕義手の構造、目的、特徴について理解するとともに、断端管理、義足の適合判定および切断者に対する理学療法の進め方について学習する。							
到達目標							
① 義肢、装具、自助具および車椅子の基本的用語を説明できる。 ② 義肢、装具、自助具および車椅子の適合判定ができる。 ③ 義肢、装具、自助具および車椅子を用いた理学療法が説明できる							
授業の方法							
教科書を用い、講義形式ですすめる。適宜、パワーポイントと参考資料を配布する。課題を行い、内容の確認を行う。初回は、義足及び下肢装具に必要な解剖の知識を確認します。講義の最後に、講義の確認の課題を行います。教科書に付属するまた、web動画を応用します。							
ICT活用							
スマホを用いて、課題の検索及び課題提出を行う。また、練習問題を提供し自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

美唄労災病院(現北海道せき損センター)において理学療法士として23年勤務し、義肢装具士の国家資格を有する。この経験を活かして義肢装具学実習について実習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストを回収後、回答の確認を行います。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 義肢装具概論 義肢学 ① 義肢学総論 下肢切断の理学療法評価	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。教科書のp18-p49を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し、義肢の基本的用語と下肢切断の理学療法評価について確認する。(90分)
担当教員			
第2回	義肢学 ② 大腿義足ソケットの種類と適合評価 膝義足ソケットの種類と適合評価	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。教科書のp50～p69を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。義肢の基本的構造について確認しておくこと。大腿義足ソケットの種類と適合評価、膝義足ソケットの種類と適合評価について確認しておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	義肢学 ③ 大腿義足・膝義足のアライメント	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。教科書1のp70～p91を読んでおくこと(90分)	課題を行います。大腿義足・膝義足のアライメントについて確認しておくこと。(90分)
担当教員			
第4回	義肢学 ④ 下腿義足ソケットの種類と適合評価 サイム義足ソケットの種類と適合評価 下腿義足・サイム義足アライメント	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。教科書のp92～p130を読んでおくこと(90分)	課題を行います。下腿義足とサイム義足の種類・構造とアライメントについて確認しておくこと。(90分)
担当教員			

第5回	義肢学 ⑤ 股義足ソケットの種類 股義足のアライメント 足部部分義足の種類と適合評価	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。教科書p131～p147を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。股義足の種類・構造とアライメントについて確認しておくこと。足部部分義足の種類と適合評価について確認しておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	義肢学 ⑥ 継ぎ手の種類とその設定調整法 下肢切断者に対する理学療法プログラム 下肢切断の理学療法	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。教科書p148～p227を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。継ぎ手の種類とその設定調整法、下肢切断者の理学療法を確認しておくこと。(90分)
担当教員			
第7回	義肢学 ⑦ 上肢切断のリハビリテーション 「義肢学」のまとめの課題 課題後、「義肢学」に関するグループワークを行い自分の考えをまとめて提出	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。教科書p228～p241を読んでおくこと。p18～227を復習しておくこと。(90分)	課題を行います。上肢切断のリハビリテーションと義肢学のまとめについて理解しておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	装具学 ① 装具学総論 下肢装具の構成部品とそのチェックアウト 足継ぎ手の制御機構	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。教科書p242～272読んでおくこと。(90分)	課題を行います。下肢装具の構成部品とチェックアウト、足継ぎ手の制御機構について理解しておくこと。(90分)
担当教員			
第9回	装具学 ② 疾患別の装具療法 脳卒中片麻痺の装具 対麻痺の装具	脳卒中片麻痺、対麻痺の病態について確認しておくこと。教科書p273～302を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。脳卒中片麻痺の装具、対麻痺の装具について理解しておくこと。(90分)
担当教員			
第10回	装具学 ③ 疾患別の装具療法 整形外科的装具 末梢神経障害の装具	整形外科的疾患、上肢の末梢神経疾患について確認しておくこと。教科書p303～p310、p327～p337を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。整形外科的装具、末梢神経疾患の装具について理解しておくこと。(90分)
担当教員			

第11回	装具学 ④ 疾患別の装具療法 頸椎疾患・胸腰椎疾患の装具 脊柱側弯症の装具	脊柱疾患について確認しておくこと。教科書p310～p326、p338～p344を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。脊椎疾患の装具について理解しておくこと。(90分)
担当教員			
第12回	装具学 ⑤ 疾患別の装具療法 小児疾患の装具 関節リウマチの装具	小児の疾患、関節リウマチについて確認しておくこと。教科書p345～p360を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。小児の疾患の装具、関節リウマチの装具について理解しておくこと。(90分)
担当教員			
第13回	装具学 ⑥ 靴型装具 車いす・杖	足部の疾患、車いすを使用する疾患について確認しておくこと。教科書p361～p374を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。靴型装具、車いすの構造と処方について理解しておくこと。(90分)
担当教員			
第14回	装具学 ⑦ 義肢装具の給付制度 短下肢装具装着における歩行分析 装具学のまとめ	福祉制度、歩行の運動学について確認しておくこと。教科書p375～p390を読んでおくこと。(90分)	義肢装具について知識の確認を行うこと。(90分)
担当教員			
第15回	義肢・装具の最近の動向について 「装具学」まとめの課題 課題後に、「装具学」に関するグループワークを行い自分の考えをまとめて提出。	義肢装具の給付制度について確認しておくこと。(90分)	義肢装具について知識の確認を行うこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での課題、およびまとめの「義肢学」および「装具学」のまとめの課題とグループワーク課題の提出と参加態度を総合的に評価する。	

その他	0	なし
教科書		
教科書 PT・OTビジュアルテキスト「義肢・装具 第2版」高田治実監修 羊土社		
参考文献		
装具学 第4版 加倉井周一編集 医歯薬出版株式会社 義肢学 石川 朗・永富史子編集 中山書店 義肢製作マニュアル 田澤英二著 医歯薬出版株式会社 義肢学 第3版 澤村誠志編集 医歯薬出版株式会社		
履修条件・留意事項等		
新しく憶えなければならないことがたくさんあります。毎講義の小テストを通してしっかりと身につけてください。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		神経障害理学療法学				ナンバリング	3516
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーのうち、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている」、「理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる」と特に関連する科目である。神経障害を有する対象者への理学療法に必要な臨床推論能力の基礎を身につけるための科目である。臨床推論能力とは、考慮すべき病態、症状、治療、予後を理解したうえで、適切な理学療法介入の意思決定を行うことである。学生には十分な基礎知識に基づいた柔軟な思考能力を養うことが望まれる。 本科目は「内科学」「神経内科学」「高次脳機能障害学」などに関連し、「神経障害理学療法学実習」「臨床実習Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」の基礎となる。							
授業の概要							
神経障害理学療法に必要な臨床推論能力を身につけるための基礎事項の理解を目的とする。 講義では、脳卒中、神経難病における理学療法の基本戦略について理解する。またこれらの基盤をなす神経系の構造と機能及び神経科学との関連を理解する。また、本領域における最近のトピックスであるニューロリハビリテーションについて解説する。							
到達目標							
1. 対象となる神経疾患の病態・症状・治療・予後について理解できる 2. 神経理学療法の基盤をなす神経系の構造・機能と理学療法との関連を理解できる 3. 神経理学療法の基本的な評価、介入戦略、目標設定について理解できる 4. 神経理学療法における臨床推論の過程を理解できる							
授業の方法							
教科書、スライドを用いて講義形式で進める。必要に応じ、基本的な解剖生理学的用語は理解しているものとして授業をすすめることがある。よって学生は事前に教科書を熟読し、予習したうえで授業に望むことが望ましい。 また、理解度確認の確認課題を行う。							
ICT活用							
ウェブを利用した画像診断の学習法の紹介などを授業内で行う。 学生・教員の相互のコミュニケーションや質疑応答などにGoogle classroomを利用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

科目担当者は病院で理学療法士としての実務経験を有している。

課題に対するフィードバックの方法

授業内での質疑応答、確認テストの解答解説を実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 神経障害理学療法の基礎1:神経系の機能と構造	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第2回	神経障害理学療法の基礎2:感覚・運動システムの障害発生メカニズム -運動機能の観点から-	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第3回	神経障害理学療法の基礎3:感覚・運動システムの障害発生メカニズム -感覚機能の観点から-	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第4回	神経障害理学療法の基礎4:リスクマネジメント	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		

第5回	ニューロリハビリテーション総論:脳卒中に対するニューロリハビリテーション	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第6回	神経難病1:パーキンソン病における理学療法の基本戦略	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第7回	神経難病2:運動失調および免疫性神経疾患における理学療法の基本戦略	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第8回	神経難病3:筋萎縮性側索硬化症における理学療法の基本戦略	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第9回	脳卒中1:脳卒中の理学療法における運動療法	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
第10回	脳卒中2:脳卒中における歩行障害と治療戦略	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		

第11回	脳卒中3:脳卒中における姿勢・バランス障害と治療戦略	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
第12回	脳卒中4:脳卒中急性期における理学療法の基本戦略	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
第13回	脳卒中5:脳卒中回復期における理学療法の基本戦略	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
第14回	脳卒中6:脳卒中生活期における理学療法の基本戦略	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
第15回	まとめテスト	これまでの授業内容を十分に復習しておくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	講義ごとの確認課題(30%)、まとめテスト(70%)	

その他	0	
教科書		
神経局在診断, 第6版, Peter Duus (著), 花北順哉 (訳), 文光堂 最新 理学療法学講座 中枢神経系理学療法学, 山口智史ら (著), 医歯薬出版株式会社		
参考文献		
病気がみえるVol.7 脳神経, MEDIC MEDIA		
履修条件・留意事項等		
予習・復習を怠らず、主体的かつ積極的な授業への参加を望みます。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		内部障害理学療法学				ナンバリング	3520
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐藤 明紀、南部 路治						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」に対応する科目である。 この科目では内科領域の疾患に対する理学療法について学ぶ。 特に内科学や老年医学などと関連し、他領域の理学療法とも併せて施行される分野である。 この講義を基に内部障害理学療法学実習を行う。							
授業の概要							
内部障害とは、WHOによる国際障害分類試案の機能障害の一つに分類される。循環器，呼吸器，代謝系および癌における機能障害の総称である。講義ではこれら対象疾患の病態と評価方法，理学療法の治療とリスク管理について学習する。							
到達目標							
内部障害疾患の病態を理解する。 主な疾患に対する評価指標と理学療法における治療を理解する。 内部障害リハビリテーション・チームの中での理学療法の役割を理解する。							
授業の方法							
教科書および配布資料を基にした講義形式で進める。 適宜パワーポイントを用いる。 毎回講義の初めに確認小テストを行う。							
ICT活用							
適宜ClassRoomにて学習の補助教材の配布、学習到達度の確認などを実施する。							
実務経験のある教員の教育内容							

佐藤、南部は理学療法士として医療機関での勤務と臨床研究を継続してきた経験を活かして、本講義を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

講義内で行う確認小テストに対し適宜フィードバックとして解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション、イントロダクション 内部障害に対するリハビリテーションの必要性和理学療法の役割について学ぶ。 がんのリハビリテーション1 がんの病態の理解と治療について学ぶ。	教科書全体を概観し内部障害に対するイメージをつかんでおくこと。教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書、講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	がんのリハビリテーション2 がんのリハビリテーションについて学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書、講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	内分泌代謝疾患・腎疾患・肝疾患の理学療法1 解剖とホルモン、代謝系の生理・生化学、メカニズムについて学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書、講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第4回	内分泌代謝疾患・腎疾患・肝疾患の理学療法2 糖尿病の病態・評価について学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書、講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		

第5回	内分泌代謝疾患・腎疾患・肝疾患の理学療法3 糖尿病の病態・評価について学ぶ。	教科書の当該部分および事前 配布資料を読んでおくこと。(90 分)	教科書, 講義資料を見直し理解 を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第6回	内分泌代謝疾患・腎疾患・肝疾患の理学療法4 肥満、メタボリックシンドロームとリスク管理について学ぶ。	教科書の当該部分および事前 配布資料を読んでおくこと。(90 分)	教科書, 講義資料を見直し理解 を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第7回	呼吸器疾患の理学療法1 呼吸器疾患の病態について学ぶ。	教科書の当該部分および事前 配布資料を読んでおくこと。(90 分)	教科書, 講義資料を見直し理解 を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第8回	呼吸器疾患の理学療法2 呼吸器疾患の検査データの読み方について学ぶ。	教科書の当該部分および事前 配布資料を読んでおくこと。(90 分)	教科書, 講義資料を見直し理解 を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第9回	呼吸器疾患の理学療法3 呼吸器疾患の評価と理学療法について学ぶ。	教科書の当該部分および事前 配布資料を読んでおくこと。(90 分)	教科書, 講義資料を見直し理解 を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第10回	循環器疾患の理学療法1 循環器系の解剖と生理について学ぶ。	教科書の当該部分および事前 配布資料を読んでおくこと。(90 分)	教科書, 講義資料を見直し理解 を深めること。(90分)
担当教員	南部 路治		

第11回	循環器疾患の理学療法2 虚血性心疾患・心不全・末梢動脈疾患の病態を理解し、治療プログラムについて学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書、講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第12回	循環器疾患の理学療法3 理学療法治療に必要な循環器機能の評価を学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書、講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第13回	循環器疾患の理学療法4 循環器疾患の病期別の理学療法について学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書、講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第14回	循環器疾患の理学療法5 循環器疾患患者の疾病管理と再発予防について学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書、講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第15回	内部障害理学療法学のまとめと確認試験 これまでに学んだ内容についての確認を行う。	前回までの授業内容について復習しておくこと。	学習理解が不十分であった項目を確認し、復習し理解を深めること。
担当教員	南部 路治		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度・授業態度(15%) 最終回の授業で理解度の確認を行う(85%)	

その他	0	なし
教科書		
内部障害理学療法 / 高橋哲也ほか / 医学書院 がんのリハビリテーション / 辻 / 医学書院		
参考文献		
生涯スポーツと運動の科学 / 森谷潔 / 市村出版		
履修条件・留意事項等		
解剖学・生理学・運動生理学・内科学・病理学が基礎となるため、履修前に十分に復習しておくこと。		
備考欄		
なし		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		日常生活活動学実習(1組)				ナンバリング	3530
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	1
担当教員	佐々木 幸子、水本 淳						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に 関係がある科目である。また、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる(関心・意欲・態度)」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」こととも関係する。「解剖学Ⅰ・Ⅱ」、「運動学Ⅰ・Ⅱ」、「理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ」および「日常生活活動学」と関連し、各種障害治療学等科目の基礎となる。							
授業の概要							
各種障害に応じた日常生活動作の実際について介助法や指導法を学ぶ。また、福祉機器の適応、生活現場の調整の指導法についても日常生活活動室および福祉機器等を使用し、学習する。							
到達目標							
日常生活に必要となる基本動作および各種障害に応じた基本的な日常生活活動評価が実施できる。 基本動作の介助・指導・治療が実施できる。 生活環境に合わせた福祉機器等の使用法を説明することができる。 住宅改善の評価、指導等が実施できる。							
授業の方法							
配布資料、教科書に基づき、講義および実習をグループ学習とし、学生間ディスカッションを取り入れる。授業開始時に課題を提示し、授業内で作成する。							
ICT活用							
Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

理学療法士として急性期病院、介護老人保健福祉施設に勤務した経験を活かして指導する(佐々木)
 理学療法士として病院、訪問看護事業所、通所介護施設で勤務した経験を活かして指導する(水本)

課題に対するフィードバックの方法

授業内で示した課題に対して、授業時間の最後に解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 基本姿勢と基本動作1(佐々木) 基本姿勢の特徴と評価法について理解する。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員	佐々木 幸子		
第2回	基本姿勢と基本動作2(佐々木) 寝返り、起き上がり動作の特徴と評価法、指導及び介助法について理解する。3-4名にグループ分けし、学生同士で患者と治療者、介護者の役割を経験、修得する。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員	佐々木 幸子		
第3回	基本姿勢と基本動作3(佐々木) 起立、着座動作、歩行動作の特徴と評価法、指導及び介助法について理解する。3-4名にグループ分けし、学生同士で患者と治療者、介護者の役割を経験、修得する。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員	佐々木 幸子		
第4回	基本姿勢と基本動作4(佐々木) 歩行補助として用いられる様々な杖や歩行補助器を知り、実際に使用しながら利用方法や歩行介助・指導方法を検討する。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員	佐々木 幸子		

第5回	基本姿勢と基本動作5(水本) 車いす操作と車いす移動の介助、指導方法について理解する。3-4名にグループ分けし、学生同士で患者と治療者、介護者の役割を経験、修得する。車いすに乗車、操作、介助を屋外環境なども含め実施する。	教科書の関連する部分を読んでおくことが望ましい。(90分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員	水本 淳		
第6回	身の回りの動作と生活関連動作1(水本) 入浴、更衣動作における姿勢・動作構成を知り、動作実施困難な場合の介助・指導方法を検討する。具体的な症例を想定し、動作中に支障が生じる場面での対応、自立度に影響する機能や能力の検討を行う。小グループに分かれ、環境設定を変更しながら複数回実施する。	関連する知識の復習をしておくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員	水本 淳		
第7回	身の回りの動作と生活関連動作2、及び身体活動量評価(水本) ・排泄動作における姿勢・動作構成を知り、動作実施困難な場合の介助・指導方法を検討する。具体的な症例を想定し、動作中に支障が生じる場面での対応、自立度に影響する機能や能力の検討を行う。小グループに分かれ、環境設定を変更しながら複数回実施する。	関連する知識の復習をしておくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員	水本 淳		
第8回	Functional Independence Measure(FIM)の実際 (水本) 日常生活活動の評価方法の一つである機能的自立度評価法(FIM)の内容を理解する。教科書に則って、FIM(Ver.3)の採点項目、採点対象、採点基準について学ぶ。実際に使用頻度が多いことから、FIM採点内容の概要および特徴的な採点基準についての確認を実習中に確認し、また筆記でも確認を行う。教科書使用必須。	関連する知識の復習をしておくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員	水本 淳		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	授業内で作成した課題に対して評価する	
その他	10	受講態度・意欲、発表等	
教科書			

Crosslink 理学療法学テキスト／臼田 滋編／メジカルビュー社
脳卒中の機能評価－SIASとFIM／千野直一他／金原出版

参考文献

標準理学療法日常生活活動学・生活環境学／鶴見隆正／医学書院

履修条件・留意事項等

原則、すべての出席が必要である
主体的かつ積極的な授業態度であること
実習開始前までにケーシーに着替えておくこと

備考欄

なし

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		日常生活活動学実習(2組)				ナンバリング	3530
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	1
担当教員	佐々木 幸子、水本 淳						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に 関係がある科目である。また、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる(関心・意欲・態度)」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」こととも関係する。「解剖学Ⅰ・Ⅱ」、「運動学Ⅰ・Ⅱ」、「理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ」および「日常生活活動学」と関連し、各種障害治療学等科目の基礎となる。							
授業の概要							
各種障害に応じた日常生活動作の実際について介助法や指導法を学ぶ。また、福祉機器の適応、生活現場の調整の指導法についても日常生活活動室および福祉機器等を使用し、学習する。							
到達目標							
日常生活に必要となる基本動作および各種障害に応じた基本的な日常生活活動評価が実施できる。 基本動作の介助・指導・治療が実施できる。 生活環境に合わせた福祉機器等の使用法を説明することができる。 住宅改善の評価、指導等が実施できる。							
授業の方法							
配布資料、教科書に基づき、講義および実習をグループ学習とし、学生間ディスカッションを取り入れる。授業開始時に課題を提示し、授業内で作成する。							
ICT活用							
Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

理学療法士として急性期病院、介護老人保健福祉施設に勤務した経験を活かして指導する(佐々木)
 理学療法士として病院、訪問看護事業所、通所介護施設で勤務した経験を活かして指導する(水本)

課題に対するフィードバックの方法

授業内で示した課題に対して、授業時間の最後に解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 基本姿勢と基本動作1(佐々木) 基本姿勢の特徴と評価法について理解する。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員	佐々木 幸子		
第2回	基本姿勢と基本動作2(佐々木) 寝返り、起き上がり動作の特徴と評価法、指導及び介助法について理解する。3-4名にグループ分けし、学生同士で患者と治療者、介護者の役割を経験、修得する。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員	佐々木 幸子		
第3回	基本姿勢と基本動作3(佐々木) 起立、着座動作、歩行動作の特徴と評価法、指導及び介助法について理解する。3-4名にグループ分けし、学生同士で患者と治療者、介護者の役割を経験、修得する。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員	佐々木 幸子		
第4回	基本姿勢と基本動作4(佐々木) 歩行補助として用いられる様々な杖や歩行補助器を知り、実際に使用しながら利用方法や歩行介助・指導方法を検討する。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員	佐々木 幸子		

第5回	基本姿勢と基本動作5(水本) 車いす操作と車いす移動の介助、指導方法について理解する。3-4名にグループ分けし、学生同士で患者と治療者、介護者の役割を経験、修得する。車いすに乗車、操作、介助を屋外環境なども含め実施する。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員	水本 淳		
第6回	身の回りの動作と生活関連動作1(水本) 入浴、更衣動作における姿勢・動作構成を知り、動作実施困難な場合の介助・指導方法を検討する。具体的な症例を想定し、動作中に支障が生じる場面での対応、自立度に影響する機能や能力の検討を行う。小グループに分かれ、環境設定を変更しながら複数回実施する。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員	水本 淳		
第7回	身の回りの動作と生活関連動作2、及び身体活動量評価(水本) ・排泄動作における姿勢・動作構成を知り、動作実施困難な場合の介助・指導方法を検討する。具体的な症例を想定し、動作中に支障が生じる場面での対応、自立度に影響する機能や能力の検討を行う。小グループに分かれ、環境設定を変更しながら複数回実施する。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員	水本 淳		
第8回	Functional Independence Measure(FIM)の実際 (水本) 日常生活活動の評価方法の一つである機能的自立度評価法(FIM)の内容を理解する。教科書に則って、FIM(Ver.3)の採点項目、採点対象、採点基準について学ぶ。実際に使用頻度が多いことから、FIM採点内容の概要および特徴的な採点基準についての確認を実習中に確認し、また筆記でも確認を行う。教科書使用必須。	教科書の関連する部分を読んでおくこと(45分)	授業内容についてノートにまとめること(45分)
担当教員	水本 淳		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	授業内で作成した課題に対して評価する	
その他	10	受講態度・意欲、発表等	
教科書			

Crosslink 理学療法学テキスト／臼田 滋編／メジカルビュー社
脳卒中の機能評価－SIASとFIM／千野直一他／金原出版

参考文献

標準理学療法日常生活活動学・生活環境学／鶴見隆正／医学書院

履修条件・留意事項等

原則、すべての出席が必要である
主体的かつ積極的な授業態度であること
実習開始前までにケーシーに着替えておくこと

備考欄

なし

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		物理療法学実習(2組)				ナンバリング	3502
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	1
担当教員	水本 淳、橋田 浩						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」こととも関係する。物理療法学で学んだ知識を実習形式で学習する。							
授業の概要							
・物理療法学で学んだ知識をもとに各種物理療法機器を用いて実習を行う。 ・機器の使用法、適応と禁忌、リスク管理を学ぶとともに物理療法の効果について学ぶ。							
到達目標							
1. 物理療法を安全かつ効果的に実施できる。 2. リスク管理を考慮し、各種物理療法機器を安全に操作できる。 3. 物理療法により得られる生体反応・効果を測定し、結果に基づいて治療効果を考察できる。							
授業の方法							
・グループ単位で各種の物理療法機器を使用し、患者役、治療者役の双方を経験した実習を行う。 ・また、物理療法に関する課題を各グループに割り振り、その検討した内容を発表する。							
ICT活用							
googleのクラスルームを利用するのでスマートフォン等を持参すること。							
実務経験のある教員の教育内容							

理学療法士としての病院勤務の経験から臨床に即した情報を加えながら実習を進めていく。

課題に対するフィードバックの方法

PowerPointによるグループ発表を最終回に行う。各発表を基に行われるディスカッションに対し適宜教員からのフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション この実習で行う物理療法機器全般の紹介と適応、禁忌を学ぶ。 実習後半に発表する課題について、各グループごとの分担、および今後の進め方を検討する。	物理療法学で学んだ内容を復習しておくこと。(30分)	オリエンテーションで示された内容について、予習すべきことを確認する。(30分)
担当教員	水本 淳		
第2回	温熱療法(ホットパック・パラフィン浴など)に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	水本 淳		
第3回	温熱療法(高周波療法・光線療法)に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	水本 淳		
第4回	寒冷療法・水治療法に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	水本 淳		

第5回	各種電気療法に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	橋田 浩		
第6回	超音波療法、レーザー光線等に関する機器について作用機序や使用方法等を学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	橋田 浩		
第7回	力学的作用を用いた治療(牽引療法、バイブレーターなど)に関する機器について作用機序や使用方法を学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	橋田 浩		
第8回	プレゼンテーション 各グループ別に割り振られた課題について、パワーポイントを用いた資料を発表し、その内容について全体で検討する。	グループ発表の準備をしておくこと。	発表会での意見を参考に、発表資料を整理し提出すること。
担当教員	橋田 浩		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎回の授業で提出された課題の内容および参加度、授業態度で評価する。 課題の内容70% 参加度、授業態度30%。	
その他	0		
教科書			

物理療法学改訂第3版 松澤正・江口勝彦 金原出版

参考文献

最新理学療法学講座 物理療法学 烏野 大・川村博文編著 医歯薬出版
CrossLink理学療法学テキスト 物理療法学 吉田英樹編 MEDICAL VIEW

履修条件・留意事項等

実習に応じケーシー着用もしくはTシャツ・短パン着用の指示あり。
機材の都合等により順序の入れ替えあり。
毎回の授業で課題があるので欠席をしないこと。
ただし、やむを得ない理由（公欠と認められる）場合においては代替の手段を講じて評価する。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		物理療法学実習(1組)				ナンバリング	3502
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	1
担当教員	水本 淳、橋田 浩						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」こととも関係する。物理療法学で学んだ知識を実習形式で学習する。							
授業の概要							
・物理療法学で学んだ知識をもとに各種物理療法機器を用いて実習を行う。 ・機器の使用法、適応と禁忌、リスク管理を学ぶとともに物理療法の効果について学ぶ。							
到達目標							
1. 物理療法を安全かつ効果的に実施できる。 2. リスク管理を考慮し、各種物理療法機器を安全に操作できる。 3. 物理療法により得られる生体反応・効果を測定し、結果に基づいて治療効果を考察できる。							
授業の方法							
・グループ単位で各種の物理療法機器を使用し、患者役、治療者役の双方を経験した実習を行う。 ・また、物理療法に関する課題を各グループに割り振り、その検討した内容を発表する。							
ICT活用							
googleのクラスルームを利用するのでスマートフォン等を持参すること。							
実務経験のある教員の教育内容							

理学療法士としての病院勤務の経験から臨床に即した情報を加えながら実習を進めていく。

課題に対するフィードバックの方法

PowerPointによるグループ発表を最終回に行う。各発表を基に行われるディスカッションに対し適宜教員からのフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション この実習で行う物理療法機器全般の紹介と適応、禁忌を学ぶ。 実習後半に発表する課題について、各グループごとの分担、および今後の進め方を検討する。	物理療法学で学んだ内容を復習しておくこと。(30分)	オリエンテーションで示された内容について、予習すべきことを確認する。(30分)
担当教員	水本 淳		
第2回	温熱療法(ホットパック・パラフィン浴など)に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	水本 淳		
第3回	温熱療法(高周波療法・光線療法)に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	水本 淳		
第4回	寒冷療法・水治療法に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	水本 淳		

第5回	各種電気療法に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	橋田 浩		
第6回	超音波療法、レーザー光線等に関する機器について作用機序や使用方法等を学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	橋田 浩		
第7回	力学的作用を用いた治療(牽引療法、バイブレーターなど)に関する機器について作用機序や使用方法を学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	指定されたレポートを作成・提出すること。(30分)
担当教員	橋田 浩		
第8回	プレゼンテーション 各グループ別に割り振られた課題について、パワーポイントを用いた資料を発表し、その内容について全体で検討する。	グループ発表の準備をしておくこと。	発表会での意見を参考に、発表資料を整理し提出すること。
担当教員	橋田 浩		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎回の授業で提出された課題の内容および参加度、授業態度で評価する。 課題の内容70% 参加度、授業態度30%。	
その他	0		
教科書			

物理療法学改訂第3版 松澤正・江口勝彦 金原出版

参考文献

最新理学療法学講座 物理療法学 烏野 大・川村博文編著 医歯薬出版
CrossLink理学療法学テキスト 物理療法学 吉田英樹編 MEDICAL VIEW

履修条件・留意事項等

実習に応じケーシー着用もしくはTシャツ・短パン着用の指示あり。
機材の都合等により順序の入れ替えあり。
毎回の授業で課題があるので欠席をしないこと。
ただし、やむを得ない理由（公欠と認められる）場合においては代替の手段を講じて評価する。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 地域理学療法学					
科目名		高齢者理学療法学				ナンバリング	3562
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐々木 幸子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている（知識・技能）」ことと特に 関係がある科目である。また、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる（関心・意欲・態度）」ことも関係する。加齢による生理的变化や高齢者が抱える精神的および身体的問題点を把握した上で理学療法を考える科目であり、様々な疾患学や「老年医学」「生活環境学」と関連し、「地域理学療法」や「チーム医療」などの基礎となる。							
授業の概要							
加齢による身体面、精神面、情緒面の変化および高齢者の障害および合併症について理解するとともに、高齢者の各種身体機能評価およびトレーニングの実施法及びリスク管理の方法について学習する。また、高齢者の理学療法に対するエビデンスについて理解を深める。							
到達目標							
・高齢者の身体的・精神的・情緒的特徴を説明できる。 ・高齢者の身体機能、生活機能、認知機能に対する評価法を理解し、実施することができる。 ・高齢者に対する理学療法の実施法およびリスク管理法について理解し、実施することができる。							
授業の方法							
教科書を用いるが、適宜、参考資料となるプリントを用いて、講義形式ですすめる。また、小テストを実施し、内容の確認を行う。							
ICT活用							
Google Form のアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。							
実務経験のある教員の教育内容							

理学療法士として病院及び介護老人保健施設に勤務した経験を活かし、多様な問題を抱える高齢者に対する理学療法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストを回収後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	高齢者の身体・精神機能の特性およびサルコペニア、フレイルについて理解する。	教科書第1章-1を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第2回	加齢に伴う生理機能、体力、姿勢、歩行機能、認知機能の変化について理解する。	教科書第1章-2を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第3回	高齢者の筋量、筋力、サルコペニアの評価法について理解する。	教科書第2章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第4回	高齢者の持久力、バランス能力、姿勢、歩行能力、身体活動、認知機能の評価法について理解する	教科書第2章を事前に読んでおくこと。また、小テストに備えて復習をしておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		

第5回	高齢者に対する筋力トレーニングについて、その基礎理論と実際を理解する。また、1～4回目の内容について理解度確認のため時間内に小テストを行う。	教科書第3章-1を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第6回	高齢者に対するバランス、持久力・歩行トレーニングについて理解する。高齢者の身体活動促進に対するアプローチについて理解する。	教科書第3章2-4章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第7回	高齢者の転倒・骨折予防について理解する。	教科書第3章-5を事前に読んでおくこと。またまとめのテストに備えて復習しておくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第8回	高齢者に対する運動および理学療法のエビデンスについて理解する。授業の最後に理解度確認のため、まとめのテストを実施する。	教科書第4章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する小テスト、まとめのテスト及び授業への参加態度により評価する。	
その他	0	なし	
教科書			

Crosslink 理学療法学テキスト 高齢者理学療法学／池添冬芽編／MEDICAL VIEW

参考文献

老人のリハビリテーション第8版／福井 圀彦監修／医学書院

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 地域理学療法学					
科目名		地域理学療法学				ナンバリング	3564
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	水本 淳、横井 裕一郎						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。」と特に関係がある科目である。また、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。」こととも関係する。							
授業の概要							
・地域リハビリテーションの概念及び活動について理解する。 ・地域理学療法の役割や考え方、方法を理解する。 ・在宅障害者(児)や高齢者・療養者のニーズの実情を理解する。 ・地域・在宅における理学療法の展開に向けて、退院時のあり方、医療関係以外の施設リハ、通院・通所指導、訪問指導、地域包括ケアなどの考え方と方法を理解する。							
到達目標							
・地域リハビリテーションの概念や具体的内容について説明できる。 ・急性期・回復期・生活期・終末期リハビリテーションの各時期に渡って理学療法士の役割を説明できる。 ・入所・通所・訪問における理学療法について説明できる。 ・地域包括ケアシステムの展開を述べることができる。							
授業の方法							
・パワーポイントと資料を用いた講義形式で進める。 ・毎回、授業の理解度確認のため小テストを実施する。 ・初回と最終回は、事前事後の学習の取り組みのためにレポートを実施する。							
ICT活用							
・Google classroomやGoogle Formを用いて、課題やアンケートを行い、双方向授業を取り入れる。 ・必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。							
実務経験のある教員の教育内容							

水本は理学療法士として、これまで臨床・研究、行政職の経験があり、地域リハビリテーションについて幅広い知識を有している。この経験を活かして地域理学療法に関する授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

- ・アクティブラーニングとして小テストを実施し、実施後には、解答・解説を行い知識を深める。
- ・小テストの最後に質問事項の記述欄を設け、次回の授業時に回答する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	講義ガイダンス 日本の人口推移に伴う地域課題と社会保障制度の概略を学習する。 国際支援および災害時の理学療法について学習する。	社会保障制度について、直近の社会情勢や新聞記事、インターネット等で最新の情報を把握しておくこと。教科書のP35～P37を読んでおくこと(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	水本 淳		
第2回	地域理学療法とは何か、地域リハビリテーションの概念・歴史・定義を学び、介護保険法と障害者総合支援法の仕組みについて学習する。	教科書のP1～P30を読んでおくこと(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	水本 淳		
第3回	地域包括ケアシステムの中で地域リハビリテーションにかかわるリハビリテーション専門職種に求められる役割、関連職種の専門性を理解し、多職種連携の重要性について学習する。	教科書のP38～P78を読んでおくこと(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	水本 淳		
第4回	地域理学療法の展開 I 急性期、回復期、生活期、終末期における国際生活機能分類(ICF)モデルの考え方、利用者ニーズの捉え方を学習する。(水本)	国際生活機能分類(ICF)について、配布資料やインターネットからその内容を読んでおくこと。教科書のP101～P107を読んでおくこと(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	水本 淳		

第5回	地域理学療法の展開Ⅱ 介護保険サービス下での施設サービス(介護老人保健施設、介護老人福祉施設)、居宅サービス(訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション、通所介護、短期入所療養介護など)、障害福祉サービス下での自立支援給付(生活介護、施設入所支援、短期入所、就労移行・継続支援など)について地域資源の実態と理学療法士の役割を学習する。	教科書のP79～P101、P108～P124を読んでおくこと(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	水本 淳		
第6回	地域理学療法の展開Ⅲ 介護予防と健康増進についての基本的概念と実際の理学療法士の取り組みについて学習する。 スポーツ活動支援および産業分野における理学療法について学習する。	教科書のP125～P161、P203～P216を読んでおくこと(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	水本 淳		
第7回	地域理学療法の展開Ⅳ 認知症について疾病分類や特徴的な症状を理解し、事例における対応方法について学習する。また、終末期や緩和ケアにおける理学療法士の関わりについて学習する。	教科書のP233～P255を読んでおくこと(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	水本 淳		
第8回	地域理学療法の展開Ⅴ 学校保健および特別支援教育における理学療法を学び、北海道内の療育状況について学習する。 「地域理学療法」から学んだことを整理し、理学療法と地域との関連性について自ら考える。	教科書のP271～281を読んでおくこと。 これまで学んだことをノートに整理すること(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	横井 裕一郎		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト・レポート等(60%) 受講態度・意欲、参加度、発表等(40%)	
その他	0		
教科書			

地域リハビリテーション学テキスト／南江堂

参考文献

地域リハビリテーション原論 Ver.7／大田仁史／医歯薬出版
新版訪問リハビリテーション実践テキスト／青海社

履修条件・留意事項等

講義毎に小テストを実施するので遅刻、欠席しないこと。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		臨床実習Ⅳ《旧カリ》				ナンバリング	4704
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	6
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけている(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、その他のすべてのディプロマ・ポリシーと関係している。							
授業の概要							
理学療法の総合的能力である目標設定、治療プログラムの立案、および実施までの一貫した流れを、実習を通して理解する。							
到達目標							
・対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる(理学療法の対象者との関係性構築) ・職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚のある言動をとることができる(チーム内での多職種との関係性および理学療法士としての役割) ・指導者の直接監督下で、実習生により実施されるべき項目(水準Ⅰ)において、①リスク管理について、②理学療法評価について、また、指導者の考えを理解し、指導者と一緒に考え、実習生により実施されるべき項目(水準Ⅲ・水準Ⅱ・水準Ⅰ)について、③理学療法治療技術におけるプログラム立案および実践ができる							
授業の方法							
基本的な知識と技術を確認するため、筆記試験、講義(パワーポイント・ハンドアウト)、実習前OSCE(客観的臨床能力試験)を行う。その後、実習施設・病院で、リハビリテーションチームの一員として、理学療法の実践を経験する。 実習後には、実習後OSCE、報告会を実施する。							
ICT活用							
必要に応じて適宜活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

池野は間理学療法士として病院に勤務した経験を活かして臨床実習Ⅴを担当する。

佐々木はは理学療法士として病院に勤務した経験を活かして臨床実習Ⅴを担当する。

水本は理学療法士として病院に勤務した経験を活かして臨床実習Ⅴを担当する。

課題に対するフィードバックの方法

実習前OSCEの結果をフィードバックし、臨床実習に生かす。また、実習後OSCEの結果から臨床実習の成果をフィードバックする。
また、実習終了後、実習指導者からの成績と学内報告会の成績を踏まえて、ゼミ教員と面談を行い、臨床実習Ⅴに向けての準備を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	実習オリエンテーション 実習オリエンテーションを通して実習内容を理解し、実習の準備ができるようにする。(池野)	実習の手引きを事前に読んでおく、実習内容を理解しておく。	実習の内容の復習をしておく。
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳		
第2回	実習前OSCE:事前に提示した課題について中枢神経領域・整形外科領域からどちらか1問試験を実施する。その後フィードバックを行い臨床実習に備える。(池野)	実習前OSCEに向けて治療室等を使用して準備する。	実習前OSCEの結果を踏まえてできなかった部分を復習しておく。
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳		
第3回	実習前学習:特別講義および自己学習を行い、臨床実習Ⅴの目的を理解する。評価結果に基づいて問題点を抽出し、治療プログラムの立案と実践について学習する。(水本)	実習前学習の時間割に沿って事前学習しておく。	実習前学習で理解できなかった点を復習しておく。
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳		
第4回	臨床実習:6週間(令和5年4月17日～5月26日)の実習を臨床実習Ⅴとする。指導者の見本を通して実際の患者の評価・プログラム立案ができるようにする。	理学療法実践に関して知識・技術の整理を行う。	実習過程をデイリーノートに記録し、確認を行う。
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳		

第5回	実習後OSCE 臨床実習で学んだ知識・技術をもとに試験を実施する。(池野)	臨床実習で学習した内容を整理し、実習後OSCEに備える。	実習後OSCEの結果について復習しておく。
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳		
第6回	実習後学習および報告会 臨床実習で学んだ知識・技術をまとめ、学生相互でその内容について説明でき、疑問に思った点は質問できるようにする。(佐々木)	6週間の臨床実習の内容をまとめる。	報告会でのアドバイスを基に実習の再確認と知識の整理を行い、サマリーシートの修正と再提出を行う。
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳		
第7回	なし	なし	なし
担当教員			
第8回	なし	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			
第10回	なし	なし	なし
担当教員			

第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			
第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	指導者からの形成的評価をもとに前後のOSCEの結果、発表会、提出物を総合的に判断する	

その他	0	なし
教科書		
PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版 補訂版 才藤栄一監修 金原出版株式会社		
参考文献		
姿勢・動作・歩行分析 畠中泰彦 羊土社		
履修条件・留意事項等		
総合臨床実習Ⅴの単位取得を条件として臨床実習Ⅵを履修できる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		臨床実習Ⅴ《旧カリ》				ナンバリング	4705
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	6
担当教員	牧野 均、池野 秀則、南部 路治						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」、「理学療法士としての臨床場面や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」に関連する科目です。全ての科目の基本事項を理解し、実際の理学療法を学ぶための科目である。国家試験や卒業後の臨床における基礎となります。							
授業の概要							
臨床実習Ⅴの内容を踏まえ、実際の症例の状況の変化に応じた評価手技の応用力を培うとともに、治療の実際に際しても患者の反応や変化を的確に把握し、目標や治療プログラムの変更を含む理学療法の進め方を学ぶ。また、リハビリテーションチームの一員として、スタッフや関係者との連携協力や記録・報告および管理面の実際を体験する。 臨床実習は、臨床実習Ⅴで学んだ目標設定や治療プログラムの立案をもとに、治療を実施して対象者の反応や変化を的確に把握し再評価することまでを目的とします。 実習生は診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら理学療法士の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を習得していきます。							
到達目標							
到達目標 ① 対象者に検査・測定についてのオリエンテーションができる。 ② 対象者の評価に必要な情報を収集できる。 ③ 適切な評価ができる。 ④ 対象者のリスク管理に配慮できる。 ⑤ 評価結果を統合・解釈し、問題点を抽出できる。 ⑥ 問題点の抽出により目標設定、治療プログラム立案ができる ⑦ プログラムに基づいて治療が実践できる。 ⑧ 再評価を行い、初期評価から最終評価までの経過を考察することができる。							
授業の方法							
基本的な知識と技術を確認するため、筆記試験、実技＋口頭試問および講義・実習を行う。その後、実習施設・病院で、リハビリテーションチームの一員として、理学療法の実践を経験する。実習後には報告会を実施する。							
ICT活用							
e-learningシステムのテスト作成機能、およびZoomやGoogle classroomを用いて遠隔学習を提供し自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

科目担当者は全員、病院施設での実務経験を有している。

課題に対するフィードバックの方法

ポートフォリオやディリーノートを実習指導者に提出することにより、適宜アドバイスを受ける。また、教員による実習訪問にて、実習状況のフィードバック等を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	実習前オリエンテーションおよび実習前指導(牧野、池野、南部) オリエンテーション:① 実習施設の発表と交通手段・宿泊等の確認 ② 実習に関する注意事項の説明	実習施設の概要、交通手段等について理解する。(90分)	実習に関する注意事項尾について確認する。(90分)
担当教員			
第2回	実習前指導:全員対象とした特別講義・実習、筆記試験、実技+口頭試問および自己学習を行い、臨床実習の目的を理解する。最終評価から統合解釈を行い、考察する知識の確認を行う。臨床理学療法の実習前評価を行う。(牧野、池野、南部)	理学療法治療プログラムを立案するための病態像の知識、治療と最終評価を行うための方法・手段・技術の確認を行う。(90分)	実習に向けて初期評価から統合と解釈・最終評価・考察をまとめるまでの理学療法の実践について理解し確認を行う。(90分)
担当教員			
第3回	学外臨床実習:6週間の実習を行う。(牧野、池野、南部) 実際の症例に対し、「見学～協同参加～実践」を通して、「評価」から「統合と解釈」及び「最終評価」を学ぶ。	理学療法実践に関して知識・技術の整理を行う。(90分)	実施過程をディリーノートに記録し確認を行う。 各担当教員の施設訪問や指導を必要に応じ行う。(90分)
担当教員			
第4回	実習後指導および報告会(牧野、池野、南部) 実習後指導:実習後評価 サマリー提出および自己学習 実習報告会:パワーポイントにて実習にて経験した内容のプレゼンテーションを行う。発表はゼミ単位で行う。 臨床理学療法に関する実習後評価を行う。	6週間の臨床実習を反省的にとらえまとめる。(90分)	報告会でのアドバイスを基に実習の再確認と知識の整理を行い、サマリーの修正と再提出を行う。(90分)
担当教員			

第5回	なし	なし	なし
担当教員			
第6回	なし	なし	なし
担当教員			
第7回	なし	なし	なし
担当教員			
第8回	なし	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			
第10回	なし	なし	なし
担当教員			

第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			
第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習前評価と実習後評価に臨床実習指導者からの報告書を基に総合的に評価する。	

その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
教科書 「PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編」才藤 栄一 金原出版		
履修条件・留意事項等		
実習前オリエンテーション・学外臨床実習・実習報告会いずれも遅刻・欠席は原則認められないので注意すること。臨床実習Ⅴで学んだことが十分理解できていることが条件となります。足りない知識・技術を学び直すことを実習前指導学習の目標としてください。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		基礎化学				ナンバリング	1154
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	藤井 駿吾、佐々木 将太						
授業の位置づけ							
化学的知識を学ぶことによって、幅広い教養を身に付けるための科目である。生化学、基礎栄養学などの科目に必要とされる基礎的知識を学ぶ科目である。理学療法学科ではディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」と、作業療法学科では「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている」と特に関連がある科目である。							
授業の概要							
私たちの身近に存在する物質や身の回りで起こる現象が、どのように化学と結びついているのかを理解するために、化学の基礎知識を習得する。 今後専門科目を履修していく上で、化学に関する基礎学力の不足によって支障が生じないように化学の基礎知識を習得する。特に、モル概念、化学反応式の量的関係、濃度等の計算問題をしっかり理解する。							
到達目標							
1. 原子の構造から、イオン、原子価を理解し、化学結合について説明できる。 2. 化学反応式の表す意味を理解し、反応式の量的関係の計算ができる。 3. 濃度計算ができる。(パーセント濃度、モル濃度) 4. 酸・塩基の定義を理解し、水素イオン濃度とpHの値を求めることができる。 5. 飽和炭化水素、特にアルカンの分子式、示性式、構造式を書くことができる。							
授業の方法							
パワーポイントによる講義形式で、必要に応じてプリント配布する。 理解度を確認するため、確認テストを実施する。							
ICT活用							
確認テストや、授業資料の配布にGoogleフォームやGoogle Classroomなどを使用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

Googleフォームによる確認テスト時は、回答送信後、得点および誤答に対する解説を返信する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	(佐々木) ・オリエンテーション ・原子の構造について学習する ・電子配置について学習する。	「原子核」、「電子」、「陽子」、「中性子」、「質量数」などの化学用語及び電子配置図について調べておく。(90分)	講義中に出題された問題を、自分の力で再度解答する。電子配置図を正確に書けるようにする。(90分)
担当教員	佐々木 将太		
第2回	(佐々木) ・イオンについて学習する。 ・電子式の書き方について学習する。(有機化学の分野でも使用) ・化学結合について学習する。 (1) イオン結合 (2) 共有結合(同種原子)	イオン結合、共有結合について調べておく。 「電子式」「構造式」の書き方について調べておく。(90分)	「電子式」「構造式」を確実に書くことができる。 化学式の表記の仕方を確実なものにする。(90分)
担当教員	佐々木 将太		
第3回	(佐々木) ・化学結合について学習する。 (3) 共有結合(異種原子) ・化学式の読み方について、別紙プリントを配布して学習する。 ・分子量の求め方を学習する。	「共有結合」特に単結合、二重結合について、調べておく。 分子量の求め方を調べておく。(90分)	「共有結合」について、説明できるようにする。化学式が確実に読め、かつ書くことができ、分子量を求めることができる。(90分)
担当教員	佐々木 将太		
第4回	(佐々木) ・物質質量(モル)の概念について学習する。 ・物質質量(モル)の求め方について学習する。	「アボガドロ数」と「モル」の計算上での関係を調べておく。(90分)	講義で出題された問題を復習することで、考え方、求め方を確実なものにする。(90分)
担当教員	佐々木 将太		

第5回	(佐々木) ・化学反応式の量的関係について学習する。 (化学反応式を使った計算問題を解く)	化学反応式の係数を持つ意味について、計算にどのような使い方をするか確認しておく。(90分)	「モル」「体積」「アボガドロ数」「分子量」の相互関係を確実に理解し、計算で求めることができる。(90分)
担当教員	佐々木 将太		
第6回	(藤井) ・質量パーセント濃度についてしっかり学習する。	質量パーセント濃度の求め方について、高校時の教科書、参考書等で事前に確認しておく。(90分)	講義中に出題された問題や配布プリントを必ず復習し、自力で問題を確実に解くことができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第7回	(藤井) ・モル濃度についてしっかり学習する。 (1) 固体 (2) 液体	モル濃度の求め方について、高校時の教科書、参考書等で事前に確認しておく。(90分)	講義中に出題された問題や配布プリントを必ず復習し、自力で問題を確実に解くことができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第8回	(藤井) ・酸と塩基について学習する。 ・中和反応について学習する。	中和滴定を利用して、濃度の求め方を確認しておく。 特に、食酢中の酢酸の定量について確認しておく。(90分)	講義中に出題された問題や配布プリントを必ず復習し、自力で問題を確実に解くことができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第9回	(藤井) ・水素イオン濃度について学習する。 ・酸化・還元について学習する。	水素イオン濃度とpHの関係について調べておく。 酸化か還元かの判定方法について事前に調べておく。(90分)	講義中に出題された問題を復習し、pHと水素イオン濃度の関係を理解する。 酸化・還元の判断も確実にできる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第10回	(藤井) ・有機化合物の歴史について学習する。 ・有機化合物(炭化水素化合物)の分類について学習する。 ・有機化合物の表し方(分子式、示性式、構造式)について学習する。	「分子式」「示性式」「構造式」の表し方の違いについて事前に調べておく。(90分)	簡単な有機化合物の「示性式」「構造式」を書くことにより、違いを確認し分類できる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		

第11回	(藤井) ・飽和炭化水素のアルカンについて学習する。 (1)アルカンの性質 (2)アルカンの反応 (3)構造異性体	身近に存在する有機化合物である「アルカン」の性質、特徴及び用途について調べておく。(90分)	講義の内容を復習し、特に構造異性体の構造式を確実に書くことができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第12回	(藤井) ・IUPAC命名法について学習する。 ・不飽和炭化水素(アルケン)について学習する。 (1)アルケンの性質 (2)アルケンの反応	IUPAC命名法、アルケンの性質、特徴及び付加反応について事前に調べておく。(90分)	IUPAC命名法を用いて確実に物質名を答えることができる。付加反応について理解する。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第13回	(藤井) ・アルコールについて学習する。 (1)アルコールの利用方法 (2)アルコールの分類 (3)アルコールの命名法 (4)線描構造式	基本的なアルコールである「メタノール」「エタノール」「プロパノール」について調べておく。(90分)	講義内容を復習し、「アルコールの酸化」「アルコールの命名法」等自分の言葉で説明することができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第14回	(藤井) ・芳香族炭化水素について学習する。 (1)歴史 (2)構造異性体・命名法 (3)置換反応	「芳香族炭化水素」の構造の特徴や構造異性体について調べておく。(90分)	講義の中で出題された問題をしっかりと復習し、構造異性体、置換反応について、説明することができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第15回	(藤井) ・身の回りに存在する芳香族炭化水素について学習する。	身の回りに存在する代表的な芳香族炭化水素について調べておく。(90分)	生活環境の中に多くの有機化合物が存在することを知ることにより、今後の生活での意識改革に繋がるとよい。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中のランダムな回で行う確認テストの合計で評価する。	

その他	0	特になし。
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		
高校で使った「教科書」または「参考書」があれば良い。		
履修条件・留意事項等		
特になし。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		リハビリテーション栄養学				ナンバリング	2342
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐々木 将太						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている（知識・技能）」ことと特に関係がある科目である。 また、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる」「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる（関心・意欲・態度）」および「理学療法士としての臨床場面での技能や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている（思考・判断・表現）」こととも関係する。 「生理学」「生命科学」「リハビリテーション医学」と関連し、「チーム医療概論」の基礎となる。							
授業の概要							
治療やリハビリテーションを円滑に進めるうえで、栄養の基礎的知識が欠かせない状況となっている。 本科目では栄養の基礎知識から、臨床現場で接する機会の多い高齢者、主な病態に対する栄養療法の基礎を学ぶ。 栄養の基礎的知識を習得し、「栄養」に配慮することでリハビリテーションによる栄養不良を防ぎ、より効率的なリハビリテーションができることを理解する。							
到達目標							
・栄養素とその働きを説明できる。 ・栄養状態の評価に必要な指標、臨床検査値、身体計測法などについて説明できる。 ・栄養補給法の概略について説明できる。 ・病態と栄養学的対策との関連を説明できる。 ・リハビリテーションにおける栄養知識の重要性を説明できる。							
授業の方法							
スライドおよび配布資料を用いて講義形式で進める。 授業の理解度をはかるため、授業毎に確認小テストを実施する。							
ICT活用							
授業に関する事項は、Classroomを用いる。 Google Formを用いて小テストを実施する。							
実務経験のある教員の教育内容							

なし

課題に対するフィードバックの方法

授業内で確認小テストの解説をする。
レポート課題へのフィードバックは、ルーブリックを通して行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	【ガイダンス】【栄養知識の重要性】 栄養、および栄養素の概念とリハビリテーションにおける栄養知識の重要性を学ぶ。 【栄養の基礎① 栄養補給ルート】 治療に用いられる栄養補給法の概略について学ぶ。 【栄養学の基礎② 栄養ケアプロセス】 栄養ケアプロセスの概略について学ぶ。	序章: pp.1-18 第1章 1. 栄養補給ルート: pp.20-22 第1章 7. 栄養ケアプロセス: pp.78-84 を読んでおく (90分)。	配布資料および授業内容を整理する (90分)。
担当教員			
第2回	【栄養の基礎③ 栄養素の役割】 栄養素代謝の概略について学ぶ。 リハビリテーションを行う患者の必要栄養量を学ぶ。	第1章 3. 栄養素の役割: pp.28-56 を読んでおく (90分)。	配布資料および授業内容を整理する (90分)。
担当教員			
第3回	【栄養の基礎エネルギー代謝】 エネルギー代謝の概略と消費エネルギーの算出方法を学ぶ。	第1章 2. エネルギー代謝: pp.23-27 を読んでおく (90分)。	配布資料および授業内容を整理する (90分)。
担当教員			
第4回	【主な病態の栄養療法①低栄養】 低栄養の病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。	第2章 1. 低栄養者の栄養管理: pp.86-91 を読んでおく (90分)。	配布資料および授業内容を整理する (90分)。
担当教員			

第5回	【主な病態の栄養療法②摂食嚥下障害, フレイル・サルコペニア】 嚥下障害者の病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。 フレイル・サルコペニアの病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。	第2章 2. 摂食嚥下障害, 3. フレイル, 4サルコペニア: pp.92-123 を読んでおく (90分).	配布資料および授業内容を整理する (90分).
担当教員			
第6回	【主な病態の栄養療法③ロコモティブシンドローム】 ロコモティブシンドロームの病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。	第2章 5. ロコモティブ・シンドローム: pp.124-128 を読んでおく (90分).	配布資料および授業内容を整理する (90分).
担当教員			
第7回	【主な病態の栄養療法④メタボリックシンドローム】 メタボリックシンドロームの病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。	第2章 6. メタボリック・シンドローム: pp.129-137 を読んでおく (90分).	配布資料および授業内容を整理する (90分).
担当教員			
第8回	【運動 (身体活動と栄養)】 身体活動が多い者, お多くなる場合の栄養について学ぶ。	身体活動と栄養の関連について調べ, 興味を持ったことを整理しておく. (90分)	配布資料および授業内容を整理する (90分).
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	提出された課題の内容により評価する. 1回目 (授業4回目終了後): 35% 2回目 (授業8回目終了後): 55%	
その他	10	各授業で実施した小テストを成績評価の一部に用いる.	
教科書			

リハビリテーションに役立つ 栄養学の基礎 [第3版] / 栢下淳・若林秀隆 編著 / 医歯薬出版株式会社

参考文献

適宜紹介する

履修条件・留意事項等

必修科目

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		整形外科科学				ナンバリング	2304
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	田邊 芳恵						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」および「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」に特に対応する科目である。また、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている(知識・技能)」「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる(関心・意欲・態度)」「作業療法学を考究し発展させるために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」にも対応している科目である。理学療法および作業療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけるための科目であり、臨床医学である整形外科科学を学ぶ。これまでに学習した「解剖学」「生理学」「運動学」「リハビリテーション医学」などと関連し、「運動器障害理学療法学」「運動器障害作業療法学」「臨床実習」の基礎となる。							
授業の概要							
脊柱および四肢の骨・関節・神経・筋組織は運動器を構成する。運動器の疾患および障害の治療は予防も含めて理学療法士・作業療法士が行う医学的リハビリテーションである。これら運動器に発生する疾患および障害を機能解剖、病態生理、画像評価の面から学習し、保存的・外科的治療の適応と方法について理解を深める。							
到達目標							
1. 一般的な整形外科疾患について、疫学、予後、病因、症候、検査所見、画像所見、診断、治療について説明できる。 2. 一般的な整形外科疾患について、医学的リハビリテーションとの関連性を説明できる。							
授業の方法							
1. 教科書を中心に授業を行い、講義形式ですすめる。 2. 整形外科科学領域の一般的疾患の症状に関しては、画像をスライドで示しながら講義をすすめる。 3. 授業の終わりには質問の時間を設ける。 4. 理解度の確認として単元毎に小テストを実施する。合格点に達しなかった場合は、合格点に達するまで繰り返し再テストを実施する。							
ICT活用							
必要に応じてGoogle Meetを用いた双方向授業を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

担当者は、整形外科専門の医療機関において理学療法士としての勤務経験があり、その後も整形外科領域の基礎研究や臨床研究を継続している。この経験を活かして整形外科の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テストの解説を行う。また、小テストの結果、合格点に達しなかった場合は、合格点に達するまで繰り返し再テストやレポート課題を実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	・オリエンテーション ・骨の構造について理解する ・骨折の種類について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(1～22ページ)を読んでもおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第2回	・骨折の治療について理解する ・偽関節と骨壊死について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(23～62ページ)を読んでもおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第3回	・変形性関節症について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(63～98ページ)を読んでもおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第4回	・関節リウマチと類縁疾患について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(99～134ページ)を読んでもおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		

第5回	・小テスト1: 1回目～4回目を試験範囲とする ・講義3、講義4で学習した疾患以外の軟骨・関節の疾患について理解する	小テスト1の試験範囲について教科書の関連する部分(1～134頁)およびノートを確認しておくこと。また、授業内容について教科書の関連する部分(135～154ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第6回	・靱帯の外傷や疾患について理解する ・腱の外傷や疾患について理解する ・筋肉の外傷や疾患について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(155～196ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第7回	・小テスト1の解説を行う ・絞扼性神経障害について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(197～240ページ)を読んでおくこと。(90分)	小テスト1の内容について復習すること。また、授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第8回	・神経根の障害について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(241～270ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第9回	・小テスト2: 5回目～8回目を試験範囲とする ・脊髄疾患について理解する	小テスト2の試験範囲について教科書の関連する部分(135～270頁)およびノートを確認しておくこと。また、授業内容について教科書の関連する部分(271～300ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第10回	・小児整形外科について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(301～342ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		

第11回	・小テスト2の解説を行う ・切断に対する治療について理解する ・熱傷に対する治療について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(343～356ページ)を読んでおくこと。(90分)	小テスト2の範囲について復習すること。また、授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第12回	・身体各部位における運動器疾患の鑑別疾患について理解する	授業内容について教科書の関連する部分(357～368ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第13回	・小テスト3:9回目～12回目を試験範囲とする ・ロコモティブシンドローム、廃用症候群、運動器不安定症について理解する ・サルコペニア、骨粗鬆症について理解する	小テスト3の試験範囲について教科書の関連する部分(271～368頁)およびノートを確認しておくこと。また、授業内容について文献やインターネット等を用いて事前に調べておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第14回	・整形外科疾患の画像評価について理解する	授業内容に関連する事柄をインターネットや図書を用いて予習しておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
第15回	・小テスト3の解説を行う ・本講義の総まとめ	本講義のノートや小テストを全て見直しておくこと。(90分)	小テスト3の内容について復習すること。また、授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	田邊 芳恵		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	行わない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	小テスト毎に成績を出し、その結果を総合的に判断する	

その他	10	授業の参加態度を評価する
教科書		
リハビリテーションのための整形外科学の歩き方 監修・田中栄 著・仲村一郎 南江堂 2020年		
参考文献		
標準整形外科学 第14版 井樋栄二・他編集 医学書院 2020年		
履修条件・留意事項等		
聴講に際しては、すでに学んだ運動器の解剖や生理学を十分に復習して臨むこと。		
備考欄		
学習内容に記載されているものの中で教科書に掲載されていない部分については、インターネットや文献などを用いて予習や復習を行うこと。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		精神医学Ⅱ				ナンバリング	2311
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	瀧山 晃弘						
授業の位置づけ							
理学療法を実践するために必要な基本的知識を身につけるための科目である。 ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、その他のすべてのディプロマ・ポリシーと関係している。 「精神医学Ⅰ」と関連する。							
授業の概要							
精神医学Ⅰで得た主要精神科疾患の症状などについての知識に加え、それぞれの疾患の病因、心理社会的な困難、治療法についての理解を深める。							
到達目標							
1. 精神科疾患に関する知識を深め、説明できる。 2. これらの知識を、理学療法士としてリハビリテーションを実践していくときに応用できる。 3. 精神科疾患を持つ患者をよく理解し適切に対応できるようになる。							
授業の方法							
パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。 必要に応じてオンライン授業を実施する。 Google Classroomを用いた理解度確認テストを講義時間内に行う。							
ICT活用							
Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

医師としての臨床経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テストのフィードバックとして解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	「神経症性障害」「生理的障害および身体的要因に関連した障害」 神経症性障害の概念とその種類、臨床的特徴について学ぶ。また、身体的要因と関連した精神障害にはどのようなものがあるか理解する。	教科書のpp.164～180を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第2回	「成人のパーソナリティ・行動・性の障害」 パーソナリティ障害の概念、代表的なパーソナリティ障害の類型とその特徴について学ぶ。	教科書のpp.181～187を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第3回	「心理的発達の障害」「精神遅滞[知的障害]」 心理的発達障害の概念を精神遅滞との比較で学ぶ。特異的発達障害と広汎性発達障害の臨床的特徴、それぞれの障害に対する治療やリハビリテーション、教育の現状を学ぶ。	教科書のpp.188～206を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第4回	「コンサルテーション・リエゾン精神医学」 コンサルテーション・リエゾン精神医学の概念を理解し、精神腫瘍学、臨死状態やターミナルケアにおける精神的問題について学ぶ。	教科書のpp.207～211を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第5回	「心身医学」 心身医学の概念と治療の基本について学ぶ。	教科書のpp.212～214を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第6回	「ライフサイクルにおける精神医学」 ライフサイクルの観点から、小児期・青年期、成人期、初老期、老年期の精神・心理特性について学ぶ。	教科書のpp.215～230を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第7回	「精神障害の治療とリハビリテーション」① 精神障害に対して用いられている主な治療法の種類と特徴、適応などについて学ぶ。	教科書のpp.231～253を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第8回	「精神障害の治療とリハビリテーション」② 精神療法その1. 認知行動療法の基本技法、行動変容技法、認知変容技法について学ぶ。	教科書のpp.231～253を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第9回	「精神障害の治療とリハビリテーション」③ 精神療法その2. 芸術療法について学ぶ。	教科書のpp.231～253を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第10回	「精神科保健医療と福祉、職業リハビリテーション」 精神保健福祉法と関連法規、精神障害者の職業リハビリテーションについて学ぶ。	教科書のpp.254～272を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第11回	「社会・文化とメンタルヘルス」① 学校におけるメンタルヘルス(学校精神保健)について学ぶ。	教科書のpp.273～275を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第12回	「社会・文化とメンタルヘルス」② 職場のメンタルヘルス(産業精神保健)について学ぶ。	教科書のpp.275～276を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第13回	「社会・文化とメンタルヘルス」③ 家庭のメンタルヘルス(家族精神保健)について学ぶ。	教科書のpp.276～277を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第14回	「社会・文化とメンタルヘルス」④ 司法精神医学、社会現象とメンタルヘルスについて学ぶ。	教科書のpp.277～278を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第15回	「社会・文化とメンタルヘルス」⑤ 宗教と精神障害について学ぶ。	教科書のp.278を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト、レポートの提出状況等。詳細は授業中に伝える。	

その他	0	なし
教科書		
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版／上野武治 編集／医学書院		
参考文献		
標準精神医学第8版／尾崎紀夫・三村將・水野雅文・村井俊哉 編集／医学書院		
履修条件・留意事項等		
精神医学Ⅰの修得を前提とする。		
備考欄		
特記事項なし。		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		内科学				ナンバリング	2302
配当年次	2年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	水越 常德、明石 浩史、永洞 明典、安丸 卓磨						
授業の位置づけ							
理学療法／作業療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけるための科目である。ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけている(知識・技能)」 「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」と特に関係する科目である。「解剖学」「生理学」「病理学」を基礎に主な内科疾患について学び、治療について理解し、「臨床実習」に繋げるための科目である。							
授業の概要							
・患者の全身状態を把握するために必要な、内科疾患の病態や臨床所見について理解する。 ・臨床的に重要な疾患と common である疾患について学ぶ。 ・疾患概念と臨床所見に重点を置きながら理解し、臨床の現場で役に立つ論理的な思考を習得する。							
到達目標							
・各内科疾患について 教科書にある Point を理解したうえで説明できる。 ・各内科疾患の概念、臨床症状、検査所見、治療を説明できる。							
授業の方法							
・パワーポイントと配布印刷物を用いて、講義形式で行う。 ・確認テストを行い、自身の理解度を確認する。							
ICT活用							
未定							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

確認テストについては、解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	循環器・腎泌尿器① 循環器の主な疾患である、心不全、虚血性心疾患、心筋疾患、心臓弁膜症、先天性心疾患、高血圧症、動脈硬化、動脈疾患、静脈疾患について学ぶ。	教科書の p116～p120、p129～p169を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員			
第2回	循環器・腎泌尿器② 循環器の主な疾患である、心不全、虚血性心疾患、心筋疾患、心臓弁膜症、先天性心疾患、高血圧症、動脈硬化、動脈疾患、静脈疾患について学ぶ。また、腎泌尿器の代表疾患である、慢性腎臓病、糸球体腎炎(原発性腎疾患)、続発性腎疾患、腎・泌尿器感染症、泌尿器科疾患、腎不全について学ぶ。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p385～p421を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員			
第3回	循環器・腎泌尿器③と確認テスト 腎泌尿器の代表疾患である、慢性腎臓病、糸球体腎炎(原発性腎疾患)、続発性腎疾患、腎・泌尿器感染症、泌尿器科疾患、腎不全について学ぶ。また、到達度を確認するテストを行う。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p385～p421を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員			
第4回	消化器① 食道の疾患、胃・十二指腸の疾患、大腸の疾患、肛門の疾患について学ぶ。	教科書の p192～p232を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員			

第5回	消化器② 食道の疾患、胃・十二指腸の疾患、大腸の疾患、肛門の疾患について学ぶ。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p192～p232を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員			
第6回	肝胆膵① 肝臓疾患、胆道疾患、膵疾患について学ぶ。	教科書の p253～p285を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員			
第7回	肝胆膵②と確認テスト 肝臓疾患、胆道疾患、膵疾患について学ぶ。また、到達度を確認するテストを行う。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p253～p285を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員			
第8回	呼吸器① 代表的な疾患である、呼吸器感染症、アレルギー・免疫疾患、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、気道系疾患、肺腫瘍、肺循環疾患、換気異常、呼吸不全、胸膜疾患、縦隔疾患について学ぶ。	教科書の p51～p92を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員			
第9回	呼吸器② 代表的な疾患である、呼吸器感染症、アレルギー・免疫疾患、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、気道系疾患、肺腫瘍、肺循環疾患、換気異常、呼吸不全、胸膜疾患、縦隔疾患について学ぶ。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p51～p92を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員			
第10回	呼吸器③と確認テスト 代表的な疾患である、呼吸器感染症、アレルギー・免疫疾患、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、気道系疾患、肺腫瘍、肺循環疾患、換気異常、呼吸不全、胸膜疾患、縦隔疾患について学ぶ。また、到達度を確認するテストを行う。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p51～p92を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員			

第11回	内分泌・代謝① 内分泌疾患である、視床下部・下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患について学ぶ。また、代謝疾患である、糖尿病、低血糖症、肥満症、メタボリックシンドローム、脂質異常症(高脂血症)、痛風／高尿酸血症、ビタミン欠乏症・過剰症について学ぶ。	教科書の p300～p322、p341～p360を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員			
第12回	内分泌・代謝②、感染症① 代謝疾患である、糖尿病、低血糖症、肥満症、メタボリックシンドローム、脂質異常症(高脂血症)、痛風／高尿酸血症、ビタミン欠乏症・過剰症について学ぶ。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p300～p322、p588～p602を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員			
第13回	感染症②と確認テスト 感染症である、細菌性疾患、真菌性疾患、ウイルス性疾患について学ぶ。また、到達度を確認するテストを行う。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p588～p602を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員			
第14回	血液・膠原病① 血液疾患である、赤血球の疾患、白血球の疾患、出血性疾患について学ぶ。また、膠原病、膠原病と同様の全身性炎症性疾患、膠原病に関連した疾患、アレルギー性疾患について学ぶ。	教科書の p506～p525、p544～p568を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員			
第15回	血液・膠原病②と確認テスト 血液疾患である、赤血球の疾患、白血球の疾患、出血性疾患について学ぶ。また、膠原病、膠原病と同様の全身性炎症性疾患、膠原病に関連した疾患、アレルギー性疾患について学ぶ。到達度を確認するテストを行う。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p506～p525、p544～p568を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト及び授業の取り組み状況によって総合的に判断	

その他	0	
教科書		
なるほどなっとく！内科学 改訂2版／浅野嘉延／南山堂		
参考文献		
随時紹介する。		
履修条件・留意事項等		
新型コロナウイルス蔓延等により授業の形態が変わる場合は別途説明する。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		医療統計学				ナンバリング	3414
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	1
担当教員	加茂 憲一						
授業の位置づけ							
様々な現象を表すデータから、本質的な内容を抽出するためには、統計学およびデータ解析の知識が必要である。本講義は、医学的なデータ解析を視野に入れつつ、そのためのツールである統計学を習得する事を目標としている。「統計の基礎」の発展的科目である。ディプロマ・ポリシーの「理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている。」と関係がある科目である。							
授業の概要							
統計学の基礎的な知識を基として、保健医療分野における様々な統計的手法について学習する。8回の講義を用いて、4つのテーマについて各2回ずつを用いて学習する。一つ目は、「統計学の基礎」から、医療統計学で用いる内容として、確率・推定・検定の概念を復習する。二つ目は、検査の有効性を評価する「感度・特異度」に関連する内容である。三つ目は、関連を持つ変数を取り扱う際に多用される「回帰分析」に関連する内容である。四つ目は、センサリングを含むイベント発生までの時間を対象とする「生存時間解析」に関連する内容である。							
到達目標							
統計学の基本的な内容を復習し、上記3つのテーマに関する内容を活用できるようになることを到達目標とする。							
授業の方法							
1回90分の講義において、前半の60分はパワーポイントを用いた座学講義を行う。必要に応じて統計フリーソフト「R」を用いた実践法を紹介する。学習内容の定着のため、最後の30分は筆記による演習を行う。							
ICT活用							
なし							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

各回の講義の最後に行う演習問題について、解答およびポイントの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	「統計学」の復習①・・・既に学習済の「統計学」から重要な内容を復習する。母集団とサンプルの概念、統計量、確率分布について復習する。	高校数学および第一学年における「統計の基礎」の復習(90分)	演習問題を完答できるようになっておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	「統計学」の復習②・・・引き続き、推定、仮説検定に関して復習する。	高校数学および第一学年における「統計の基礎」の復習(90分)	演習問題を完答できるようになっておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	感度と特異度・・・検査結果の有効性の評価指標である感度と特異度について学習する。これらの間に存在するトレードオフの概念を理解する。	二項分布 区間推定 (90分)	演習問題を完答できるようになっておくこと。(90分)
担当教員			
第4回	ROC曲線とカットオフ値・・・陽性・陰性の判断といった意思決定における数値をどのように決定すれば良いのかを理解する。	ROC曲線とカットオフ値・・・陽性・陰性の判断といった意思決定における数値をどのように決定すれば良いのかを理解する。(90分)	演習問題を完答できるようになっておくこと。(90分)
担当教員			

第5回	回帰分析①・・・単回帰の復習を行い、その概念を重回帰に拡張する。最小2乗法に基づくパラメータ推定を理解する。	単回帰（90分）	演習問題を完答できるようになっておくこと。（90分）
担当教員			
第6回	回帰分析②・・・重回帰に関する様々な事例分析に取り組む。ダミー変数の取り扱いと意味を理解する。	単回帰（90分）	演習問題を完答できるようになっておくこと。（90分）
担当教員			
第7回	生存時間解析①・・・イベント発生までの時間に関する解析方法を学習する。センサー症例について理解し、カプラン・マイヤー法に基づき生存曲線を描くことを目標とする。	カイ2乗分布（90分）	演習問題を完答できるようになっておくこと。（90分）
担当教員			
第8回	生存時間解析②・・・生存時間の異なる群を比較し、その差異の有無をログランク検定により判断する。併せて仮説検定の考え方についても復習する。	カイ2乗分布 生存関数 センサー検定（90分）	演習問題を完答できるようになっておくこと。（90分）
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	10	講義後のミニレポート	
その他	90	期末レポート	
教科書			

なし(毎回講義内容のプリントを配布し、最後に演習問題を配布する)

参考文献

なし

履修条件・留意事項等

高校までの「数学」および第一学年で学習した「統計学」の知識を用いるので、復習をしておくこと。

備考欄

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		理学療法研究Ⅰ				ナンバリング	4601
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、松田 直樹、南部 路治						
授業の位置づけ							
理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけるための科目であり、研究課題に沿った対象者や実験機器の選択、調査表の作成をし、理学療法における科学的検証能力を養う。卒業研究論文作成や卒業研究発表を目指すため「理学療法研究法」「理学療法研究セミナー」と関連し「理学療法研究Ⅱ」の基礎となる。このため理学療法研究ⅠとⅡは連動して実施する。最終的にはDPである、理学療法学における課題を論理的に探求する能力、理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につける。							
授業の概要							
セミナー教員の指導の下に、研究課題に沿った妥当な実験・調査方法の選択、即ち、対象者および実験機器の選択あるいは調査表を作成し、少人数グループによる実験・調査を通して理学療法における科学的検証能力を養う。							
到達目標							
①研究の目的に沿った実験・調査方法を立案することができる。 ②可能であれば実験・調査を行い、信頼性のあるデータを収集することができる。 ③研究計画にて研究方法まで具体的に立案して、わかりやすくプレゼンテーションすることができる							
授業の方法							
ゼミナー担当教員の指導のもと自らの課題を探究し、その解決を同じゼミナーの所属学生と共に演習形式で実施していく。							
ICT活用							
対面指導の他にオンライン指導を併用して行う							
実務経験のある教員の教育内容							

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

ゼミナー担当教員や所属学生と共に研究内容の確認や討論を行い、各課題へのフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーションを受講し、研究の進め方や注意点について理解する。	自身の研究内容について、ゼミ担当教員と打ち合わせを行い、本科目内での実施方法について熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員との打ち合わせから本科目内での実施方法についての改善点を熟考すること。(20分)
担当教員	橋田 浩		
第2回	研究を立案する① 先行研究と照らし合わせ、自身の研究について考える。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
第3回	研究を立案する② 先行研究と照らし合わせ、自身の研究疑問を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
第4回	研究を立案する③ 先行研究と照らし合わせ自身の研究疑問を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		

第5回	研究を立案する④ 自身の研究疑問について、幅広く研究論文を精読して、研究の可能性を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
第6回	研究を立案する⑤ 自身の研究疑問について、幅広く研究論文を精読して、研究の可能性を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
第7回	研究を立案する⑥ 自身の研究疑問について、幅広く研究論文を精読して、研究の可能性を検討する	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
第8回	研究を立案する⑦ 自身の研究疑問について、明らかにするための具体的な研究手法、研究データ収集方法、研究手順を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
第9回	研究を立案する⑧ 自身の研究疑問について、明らかにするための具体的な研究手法、研究データ収集方法、研究手順を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
第10回	研究を立案する⑨ 具体的な研究手法、研究データ収集方法、研究手順を検討するするためパイロットスタディを行う。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		

第11回	研究計画のまとめ① 発表原稿、発表スライドの作成	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
第12回	研究計画のまとめ② 発表原稿、発表スライドの作成	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
第13回	研究計画のまとめ③ 発表原稿、発表スライドの作成	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
第14回	研究計画の発表① プレゼンテーションによる発表	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
第15回	研究計画の発表② プレゼンテーションによる発表	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	横井 裕一郎、大森 圭、池野 秀則、橋田 浩、牧野 均、高田 雄一、佐々木 幸子、柴田 恵理子、松田 直樹、水本 淳、		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	研究立案への論理性、研究方法の実現性、研究実施に対する参加態度、プレゼンテーションを総合的に評価する。	

その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		
学生自身の主体的な取り組み、積極的な研究態度が望まれる。ただし、遵守事項が多いので指導教員の指導のもとにすすめること。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法管理学					
科目名		理学療法管理学				ナンバリング	3460
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	横井 裕一郎、南部 路治						
授業の位置づけ							
・ディプロマ・ポリシーの「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」と特に関係がある科目である。 また、幅広く教養を高める意識と、理学療法学の発展に貢献するという使命感を持っている。(関心・意欲・態度)」こととも関係する。 ・「理学療法概論」と関連し、「理学療法研究法」、「各臨床実習」科目の基礎となる。							
授業の概要							
・理学療法士として職業倫理、チーム医療における理学療法士の役割について理解するとともに、病院・施設の組織および記録・報告、臨床におけるリスク管理、理学療法施設基準、診療報酬等の理学療法部門の管理運営について学習する。 ・ゲスト講師からの現場での話を聞き、理学療法管理の理解を深める。							
到達目標							
1. 理学療法部門の管理・運営について説明できる。 2. 医療専門職として倫理感を有し、理学療法を遂行できる。 3. チーム医療を認識し、その中での理学療法士の役割について説明できる。 4. 医療事故の原因を理解し、事故の予防に努め、リスク管理ができる。 5. 臨床における問題解決法について述べることができる。							
授業の方法							
授業資料のPDFは事前にGoogleクラスルームで提示するので、教科書と併せて確認すること。 授業はパワーポイントを用いた講義形式である。また、理解度の確認として小テストを実施する。 授業に関する質問はGoogleクラスルームでのメールで対応する。							
ICT活用							
Googleのクラスルームを利用するので、ノートPC、タブレット等を持参すること							
実務経験のある教員の教育内容							

担当教員2名は理学療法士としての病院勤務経験があり、その経験を元に、理学療法士に必要とされる管理業務全般について講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テスト実施後には、解答、解説を行う。また、授業についての質問は適宜受けつける。
ゲスト講師の講義の場合は感想を含めた学びレポートを提出する。必要に応じてコメントを記載する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	オリエンテーション 理学療法士と管理の関わりについて紹介。組織とは何か、管理(マネジメント)とは何かについて理解する。 (授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。 (90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	横井 裕一郎		
第2回	理学療法士の業務に関わる法令と、社会保障制度における理学療法士の役割について理解する。 (授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。 (90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第3回	専門職と倫理、患者の権利(リスボン宣言)、理学療法士の職業倫理について理解する。(授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。 (90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第4回	理学療法におけるリスク管理、とくに安全管理と感染対策について理解する。(授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。 (90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		

第5回	医療保険における各種リハビリテーション料の内容と、施設基準(設備・人的基準)を理解する。(授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第6回	リハビリテーション医療に必要な診療録、ならびに帳票類について理解する。(授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第7回	職場における人事管理(採用から退職まで)、人的資源計画について検討する。(授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第8回	リハビリテーション部門の業務及び管理について、実際の事例をみて実務を理解する。(課題レポート①20点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	横井 裕一郎		
第9回	介護保険制度が成立した背景と制度の概要、および主なサービスの内容を理解する。(授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第10回	理学療法士が関わる介護保険サービス(通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション)から、維持期リハビリテーションの重要性を理解する。(授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		

第11回	介護保険施設での業務管理(人事管理・帳票管理・多職種連携)について検討する。(授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第12回	介護保険施設での業務や管理の実際の事例を見て、実務を理解する。(授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	横井 裕一郎		
第13回	理学療法士の卒前・卒後教育の具体的内容と、専門職に必要な生涯学習の重要性を理解する。(授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	横井 裕一郎		
第14回	理学療法士が将来、教員や研究者をめざすにはどのような取り組みが必要かを理解する。(授業内課題5点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	横井 裕一郎		
第15回	理学療法士の経験をもとに起業するには、どのような取り組みが必要かを理解する。(課題レポート②15点)	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	横井 裕一郎		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内課題 13回×各5点＝65点 課題レポート①20点 課題レポート②15点を合計して100点満点で評価する	

その他	0	なし
教科書		
リハビリテーション管理学 第1版 齋藤昭彦・下田信明編 羊土社		
参考文献		
必要に応じて提示する		
履修条件・留意事項等		
授業態度を重視する。 毎回の授業で授業内課題を行うので欠席しないこと 但し、止むを得ない理由(公欠と認められる)場合においては代替方法にて評価する。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		子どもの理学療法学				ナンバリング	3524
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	講義	単位	2
担当教員	横井 裕一郎						
授業の位置づけ							
理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけるための科目である。人間発達学、小児科学、神経内科学、整形外科学、理学療法評価学などを基礎とした専門かつ応用的な講義である。本講義はディプロマポリシーの対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できるようになると関連している。							
授業の概要							
発達過程に障がいを持った人の特徴と理学療法評価・治療について学習する。正常発達の理解に加えて神経障害、運動器障害に起因する運動障害の違いを学習し、それに対する運動療法に関する理論的背景を理解する。脳性まひ、二分脊椎症、ダウン症、早産低出生体重児、発達性協調運動障害などの理学療法を学習する。							
到達目標							
1.正常運動発達と反射の関係を理解し、理学療法へ応用できる 2.脳性まひを持つ児・者の発達・神経障害・運動器障害、知覚運動障害と理学療法について理解できる 3.発達性協調運動障害の問題と理学療法について理解できる 4.発達障害に対するクリニカルリーズニング(理学療法評価、治療、目標設定など)を理解できる 5.障がいを持つ子どもと成人を取り巻く社会環境について理解できる							
授業の方法							
教科書、パワーポイント、動画、配付資料を使用して講義形式ですすめる。 理解度を確認するために、小テストを行う。							
ICT活用							
必要に応じてオンライン授業を行う。動画を使用して障がいのある子どもを説明する。							
実務経験のある教員の教育内容							

小児理学療法の実務経験があり、現在でも児童発達支援センター等にて小児理学療法を行い、34年経験している。この経験を生かして新生児・乳幼児から大人まで成長した人の障がいに対する理学療法について講義する。障がい種類は発達の遅れや発達性協調運動障害から神経障害である脳性麻痺まで幅広く講義する。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして出席確認の試験を行い、試験回収後、解説する

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	発達障害・肢体不自由児療育の総論、正常運動発達と異常運動発達① オリエンテーション 発達障害理学療法学の対象となる疾患・概念・歴史、Frame work、発達に関する概念、生後6ヶ月までの運動発達と原始・姿勢反射について学習する。	教科書①第1～4章を読んでおく(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第2回	正常運動発達と異常運動発達② 発達に関する概念、生後6ヶ月以降の運動発達と原始・姿勢反射について学習する 正常児と障がいを持つ子どもの発達の違いについて学習する	教科書①第1～4章を読んでおく(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第3回	脳性まひの総論、評価と理学療法① 脳性まひの原因、定義、筋の性状による分類 脳性まひの運動発達経過(神経系の問題と運動器系の問題)、痙直型四肢麻痺の特徴を学習する。	教科書①第6章を読んでおく(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第4回	脳性まひの評価と理学療法② 痙直型両麻痺の特徴・評価・理学療法を学習する 脳室周囲白質軟化症による脳性まひの理学療法を学習する。さらに多く見られる筋骨格系の問題と装具療法、筋緊張を減弱する手術療法、薬物治療について学習する。	教科書①第7～9章を読んでおく。教科書②2～4章を読んで、動画を確認する(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			

第5回	脳性まひの評価と理学療法③ アトニー型・失調型の特徴・評価・理学療法、成人期の問題、姿勢ポジショニング、理学療法の必要性について学習する。	教科書①第10章を読んでおく。 教科書②第5～7章を読んで動画を確認する(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第6回	ハイリスク児の特徴と理学療法 NICUにおける児の認知・運動特性と評価・理学療法、呼吸・嚥下の問題、ポジショニング、カンガルーケアなどを利用した母子愛着形成、退院後の子育て指導などについて学習する	教科書①第6章と15章を読んでおく。教科書②の第1章を読んで、動画を確認する(90分)。	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第7回	発達性協調運動障害、精神運動発達遅滞児の特徴と理学療法 近年増加傾向である運動の協調性が問題となる自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害、不器用児などの発達の特徴、ダウン症候群をはじめとする筋緊張低下を呈する精神運動発達遅滞児の特徴と理学療法について学習する。	教科書①第12章を読んでおく。 教科書②第8・12章を読んで、動画を確認する(90分)。	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第8回	運動発達遅滞児、子どものスポーツ障害の特徴 運動発達遅滞児の理学療法を学習し、子どもの成長過程中によく見られるスポーツ障害の原因と特徴を理解する。	参考書の子どものスポーツ障害とリハビリテーションを読んでおく(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第9回	神経・筋疾患、脳炎後遺症の特徴と理学療法 先天性筋ジストロフィー、脊髄性筋萎縮症などの遺伝形式・運動特徴、評価、理学療法について学習する。また小児期に見られる脳炎後遺症の特徴について学習する。	教科書①第13章を読んでおく。 教科書②第9章を読んで動画を確認する(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第10回	小児整形疾患の特徴と理学療法 二分脊椎症、骨形成不全症、軟骨栄養症、ペルテス病などの特徴・評価・手術療法・理学療法について学習する	教科書①第11章を読んでおく。 教科書②の第10章を読んで動画を確認する(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			

第11回	重症心身障害児・者の特徴・評価と理学療法① 運動機能評価、姿勢運動の特徴、摂食、嚥下、呼吸機能の問題と評価・理学療法を学習する 24時間姿勢ケアをはじめとするポジショニングによる身体への影響について学習する	教科書①第14～15章、理学療法評価学の呼吸機能検査を読んでもおく(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第12回	重症心身障害児・者の特徴・評価と理学療法② 運動機能評価、姿勢運動の特徴、摂食、嚥下、呼吸機能の問題と評価・理学療法を学習する。在宅で生活している医療的ケア児のフォロー体制、理学療法的視点について学習する。	教科書①第14～15章、理学療法評価学の呼吸機能検査を読んでもおく(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第13回	障害のある子どものクリニカルリーズニングと評価について(ICFに基づく障害構造の理解) GMFM, GMFCS, PEDI, SMTCPなどの評価バッテリーの意義、評価・治療の具体的進め方、制限因子、目標、プログラムの立案について学習する	教科書①第2章を読んでもおく(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第14回	発達障害の児・者に対する運動療法① 運動療法の基盤である運動学習理論、ダイナミックシステムズ理論、アフオーダンスの理論、筋緊張の解釈、機能的理学療法、ボイタ法等について学習する	教科書①第6章を読んでもおく(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第15回	発達障害の児・者に対する運動療法②、発達障害児を取り巻く環境 ボバース概念について歴史的背景、理論背景、治療例から学習する。また日本・北海道内の障害児療育における現状を理解する	事前配付資料、教科書①第16章を読んでもおく(90分)。	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	
定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート課題、ふり返りテストの点数、講義の参加態度	

その他	0	なし
教科書		
①小児理学療法学テキスト改訂第3版／細田多穂監修／南江堂 ②イラストでわかる小児理学療法学演習／上杉雅之監修／医歯薬出版(後期の実習でも使用)		
参考文献		
脳性まひ児の24時間姿勢ケア／今川忠男監訳／三輪書店 子どものスポーツ障害とリハビリテーション／小山郁／ラビュータ 人間発達学/上杉雅之/医歯薬出版		
履修条件・留意事項等		
遅刻3回を1回の欠席として計算する。理解度を確認するために、小テストを行うので予習・復習すること		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		徒手理学療法技術セミナー(2組)				ナンバリング	3532
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	大森 圭、橋田 浩						
授業の位置づけ							
理学療法のうち徒手理学療法を行うための基本的な関節と軟部組織の機能評価と治療の専門的知識と技術を身につけるための「運動学」を基礎とした科目であり、「臨床実習」につながる。							
授業の概要							
運動器系(筋骨格系)障害に対する徒手療法(マニュアルセラピー)について学習する。上肢、下肢、脊柱、骨盤に対し運動学的観点から治療の概念を理解し、系統的な障害の評価・診断の進め方および基本的な評価・治療手技について学習する。							
到達目標							
・理学療法における徒手療法の意義について説明できる。 ・骨運動と関節運動(副運動)の関係を理解し、評価・治療技術を適用できる。 ・運動機能障害の問題点を系統的に説明できる。 ・関節および関節の動きや、筋肉を触知でき、徒手療法の基本的評価・治療手技を遂行できる。							
授業の方法							
テキスト、パワーポイントによる基本事項の説明とデモンストレーションおよび実技を行う。							
ICT活用							
必要に応じてオンラインでの授業を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

両教員とも総合病院および整形外科での勤務経験があり、徒手理学療法の幅広い知識と臨床経験および最新の知見を有しており、これらを活かした講義と実技について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

実技巡回にて個別にフィードバックする。オンライン授業の場合、メール等にて質問とフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	総論Ⅰ：徒手療法の歴史と国際的位置付けについて。治療概念、用語の定義、徒手療法の効果、適応と禁忌について。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習をする事90分
担当教員	橋田 浩		
第2回	総論Ⅱ：関節の構造と運動、組織の治癒過程、評価方法について。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第3回	・上肢の徒手療法① 肩甲帯の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	橋田 浩		
第4回	・上肢の徒手療法② 肩関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		

第5回	・上肢の徒手療法③ 肘関節、前腕の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩		
第6回	・上肢の徒手療法④ 手関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第7回	・上肢の徒手療法⑤ 手根骨・手指関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩		
第8回	・下肢の徒手療法① 股関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第9回	・下肢の徒手療法② 膝関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩		
第10回	・下肢の徒手療法③ 膝関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		

第11回	・下肢の徒手療法④ 足関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩		
第12回	・下肢の徒手療法⑤ 足部の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第13回	脊柱の徒手療法① 脊柱の触診と評価・治療(腰椎、骨盤)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩		
第14回	脊柱の徒手療法② 脊柱の触診と評価・治療(頭部・頸部・胸椎)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第15回	まとめ 徒手療法の確認テストを行う。	まとめのための予習をしておくこ と 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない	
定期試以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	出席、確認テスト、参加態度、理解度等により総合的に判断する	

その他	0	なし
教科書		
整形徒手理学療法 富雅男・砂川勇監修 医歯薬出版株式会社		
参考文献		
筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 Donald A.Neumann 医歯薬出版株式会社		
履修条件・留意事項等		
必要資料は随時配布します。 実習科目につき、白衣、Tシャツ、短パンを用意してください。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		徒手理学療法技術セミナー(1組)				ナンバリング	3532
配当年次	3年	開講学期	2023年前期	区分	演習	単位	1
担当教員	大森 圭、橋田 浩						
授業の位置づけ							
理学療法のうち徒手理学療法を行うための基本的な関節と軟部組織の機能評価と治療の専門的知識と技術を身につけるための「運動学」を基礎とした科目であり、「臨床実習」につながる。							
授業の概要							
運動器系(筋骨格系)障害に対する徒手療法(マニュアルセラピー)について学習する。上肢、下肢、脊柱、骨盤に対し運動学的観点から治療の概念を理解し、系統的な障害の評価・診断の進め方および基本的な評価・治療手技について学習する。							
到達目標							
・理学療法における徒手療法の意義について説明できる。 ・骨運動と関節運動(副運動)の関係を理解し、評価・治療技術を適用できる。 ・運動機能障害の問題点を系統的に説明できる。 ・関節および関節の動きや、筋肉を触知でき、徒手療法の基本的評価・治療手技を遂行できる。							
授業の方法							
テキスト、パワーポイントによる基本事項の説明とデモンストレーションおよび実技を行う。							
ICT活用							
必要に応じてオンラインでの授業を行う。							
実務経験のある教員の教育内容							

両教員とも総合病院および整形外科での勤務経験があり、徒手理学療法の幅広い知識と臨床経験および最新の知見を有しており、これらを活かした講義と実技について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

実技巡回にて個別にフィードバックする。オンライン授業の場合、メール等にて質問とフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	総論Ⅰ：徒手療法の歴史と国際的位置付けについて。治療概念、用語の定義、徒手療法の効果、適応と禁忌について。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習をする事90分
担当教員	橋田 浩		
第2回	総論Ⅱ：関節の構造と運動、組織の治癒過程、評価方法について。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習をする事90分
担当教員	大森 圭		
第3回	・上肢の徒手療法① 肩甲帯の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	橋田 浩		
第4回	・上肢の徒手療法② 肩関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	大森 圭		

第5回	・上肢の徒手療法③ 肘関節、前腕の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩		
第6回	・上肢の徒手療法④ 手関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第7回	・上肢の徒手療法⑤ 手根骨・手指関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩		
第8回	・下肢の徒手療法① 股関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第9回	・下肢の徒手療法② 膝関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩		
第10回	・下肢の徒手療法③ 膝関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		

第11回	・下肢の徒手療法④ 足関節の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩		
第12回	・下肢の徒手療法⑤ 足部の徒手療法 理論と実技(触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第13回	脊柱の徒手療法① 脊柱の触診と評価・治療(腰椎、骨盤)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩		
第14回	脊柱の徒手療法② 脊柱の触診と評価・治療(頭部・頸部・胸椎)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
第15回	まとめ 徒手療法の確認テストを行う。	まとめのための予習をしておくこ と 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	大森 圭		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない	
定期試験以外(授業内容の課題・ 参加度・出席態度等)	100	出席、確認テスト、参加態度、理解度等により総合的に判断する	

その他	0	なし
教科書		
整形徒手理学療法 富雅男・砂川勇監修 医歯薬出版株式会社		
参考文献		
筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 Donald A.Neumann 医歯薬出版株式会社		
履修条件・留意事項等		
必要資料は随時配布します。 実習科目につき、白衣、Tシャツ、短パンを用意してください。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		臨床実習Ⅴ(総合)				ナンバリング	0
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	6
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけている(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、その他のすべてのディプロマ・ポリシーと関係している。							
授業の概要							
理学療法の総合的能力である目標設定、治療プログラムの立案、および実施までの一貫した流れを、実習を通して理解する。							
到達目標							
・対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる(理学療法の対象者との関係性構築) ・職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚のある言動をとることができる(チーム内での多職種との関係性および理学療法士としての役割) ・指導者の直接監督下で、実習生により実施されるべき項目(水準Ⅰ)において、①リスク管理について、②理学療法評価について、また、指導者の考えを理解し、指導者と一緒に考え、実習生により実施されるべき項目(水準Ⅲ・水準Ⅱ・水準Ⅰ)について、③理学療法治療技術におけるプログラム立案および実践ができる							
授業の方法							
基本的な知識と技術を確認するため、筆記試験、講義(パワーポイント・ハンドアウト)、実習前OSCE(客観的臨床能力試験)を行う。その後、実習施設・病院で、リハビリテーションチームの一員として、理学療法の実践を経験する。 実習後には、実習後OSCE、報告会を実施する。							
ICT活用							
必要に応じて適宜活用する。							
実務経験のある教員の教育内容							

池野は間理学療法士として病院に勤務した経験を活かして臨床実習Ⅴを担当する。

佐々木は理学療法士として病院に勤務した経験を活かして臨床実習Ⅴを担当する。

水本は理学療法士として病院に勤務した経験を活かして臨床実習Ⅴを担当する。

課題に対するフィードバックの方法

実習前OSCEの結果をフィードバックし、臨床実習に生かす。また、実習後OSCEの結果から臨床実習の成果をフィードバックする。
また、実習終了後、実習指導者からの成績と学内報告会の成績を踏まえて、ゼミ教員と面談を行い、臨床実習Ⅴに向けての準備を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	実習オリエンテーション 実習オリエンテーションを通して実習内容を理解し、実習の準備ができるようにする。(池野)	実習の手引きを事前に読んでおく、実習内容を理解しておく。	実習の内容の復習をしておく。
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳		
第2回	実習前OSCE:事前に提示した課題について中枢神経領域・整形外科領域からどちらか1問試験を実施する。その後フィードバックを行い臨床実習に備える。(池野)	実習前OSCEに向けて治療室等を使用して準備する。	実習前OSCEの結果を踏まえてできなかった部分を復習しておく。
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳		
第3回	実習前学習:特別講義および自己学習を行い、臨床実習Ⅴの目的を理解する。評価結果に基づいて問題点を抽出し、治療プログラムの立案と実践について学習する。(水本)	実習前学習の時間割に沿って事前学習しておく。	実習前学習で理解できなかった点を復習しておく。
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳		
第4回	臨床実習:6週間(令和5年4月17日～5月26日)の実習を臨床実習Ⅴとする。指導者の見本を通して実際の患者の評価・プログラム立案ができるようにする。	理学療法実践に関して知識・技術の整理を行う。	実習過程をデイリーノートに記録し、確認を行う。
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳		

第5回	実習後OSCE 臨床実習で学んだ知識・技術をもとに試験を実施する。(池野)	臨床実習で学習した内容を整理し、実習後OSCEに備える。	実習後OSCEの結果について復習しておく。
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳		
第6回	実習後学習および報告会 臨床実習で学んだ知識・技術をまとめ、学生相互でその内容について説明でき、疑問に思った点は質問できるようにする。(佐々木)	6週間の臨床実習の内容をまとめる。	報告会でのアドバイスを基に実習の再確認と知識の整理を行い、サマリーシートの修正と再提出を行う。
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳		
第7回	なし	なし	なし
担当教員			
第8回	なし	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			
第10回	なし	なし	なし
担当教員			

第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			
第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	実施しない	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	指導者からの形成的評価をもとに前後のOSCEの結果、発表会、提出物を総合的に判断する	

その他	0	なし
教科書		
PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版 補訂版 才藤栄一監修 金原出版株式会社		
参考文献		
姿勢・動作・歩行分析 畠中泰彦 羊土社		
履修条件・留意事項等		
総合臨床実習Ⅴの単位取得を条件として臨床実習Ⅵを履修できる。		
備考欄		

2023 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		人間科学部 理学療法学科					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		臨床実習Ⅵ(総合)				ナンバリング	0
配当年次	4年	開講学期	2023年前期	区分	実習	単位	6
担当教員	牧野 均、池野 秀則、南部 路治						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」、「理学療法士としての臨床場面や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」に関連する科目です。全ての科目の基本事項を理解し、実際の理学療法を学ぶための科目である。国家試験や卒業後の臨床における基礎となります。							
授業の概要							
臨床実習Ⅴの内容を踏まえ、実際の症例の状況の変化に応じた評価手技の応用力を培うとともに、治療の実際に際しても患者の反応や変化を的確に把握し、目標や治療プログラムの変更を含む理学療法の進め方を学ぶ。また、リハビリテーションチームの一員として、スタッフや関係者との連携協力や記録・報告および管理面の実際を体験する。 臨床実習は、臨床実習Ⅴで学んだ目標設定や治療プログラムの立案をもとに、治療を実施して対象者の反応や変化を的確に把握し再評価することまでを目的とします。 実習生は診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら理学療法士の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を習得していきます。							
到達目標							
① 対象者に検査・測定についてのオリエンテーションができる。 ② 対象者の評価に必要な情報を収集できる。 ③ 適切な評価ができる。 ④ 対象者のリスク管理に配慮できる。 ⑤ 評価結果を統合・解釈し、問題点を抽出できる。 ⑥ 問題点の抽出により目標設定、治療プログラム立案ができる ⑦ プログラムに基づいて治療が実践できる。 ⑧ 再評価を行い、初期評価から最終評価までの経過を考察することができる。							
授業の方法							
基本的な知識と技術を確認するため、筆記試験、実技＋口頭試問および講義・実習を行う。その後、実習施設・病院で、リハビリテーションチームの一員として、理学療法の実践を経験する。実習後には報告会を実施する。							
ICT活用							
ICT活用 e-learningシステムのテスト作成機能、およびZoomやGoogle classroomを用いて遠隔学習を提供し自主学習を促す。							
実務経験のある教員の教育内容							

科目担当者は全員、病院施設での実務経験を有している。

課題に対するフィードバックの方法

ポートフォリオやディリーノートを実習指導者に提出することにより、適宜アドバイスを受ける。また、教員による実習訪問にて、実習状況のフィードバック等を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)
第1回	実習前オリエンテーションおよび実習前指導(牧野、池野、南部) オリエンテーション:① 実習施設の発表と交通手段・宿泊等の確認 ② 実習に関する注意事項の説明	実習施設の概要、交通手段等について理解する。(90分)	実習に関する注意事項尾について確認する。(90分)
担当教員			
第2回	実習前指導:全員対象とした特別講義・実習、筆記試験、実技＋口頭試問および自己学習を行い、臨床実習の目的を理解する。最終評価から統合解釈を行い、考察する知識の確認を行う。臨床理学療法の実習前評価を行う。(牧野、池野、南部)	理学療法治療プログラムを立案するための病態像の知識、治療と最終評価を行うための方法・手段・技術の確認を行う。(90分)	実習に向けて初期評価から統合と解釈・最終評価・考察をまとめるまでの理学療法の実践について理解し確認を行う。(90分)
担当教員			
第3回	学外臨床実習:6週間の実習を行う。(牧野、池野、南部) 実際の症例に対し、「見学～協同参加～実践」を通して、「評価」から「統合と解釈」及び「最終評価」を学ぶ。	理学療法実践に関して知識・技術の整理を行う。(90分)	実施過程をディリーノートに記録し確認を行う。 各担当教員の施設訪問や指導を必要に応じ行う。(90分)
担当教員			
第4回			
担当教員			

第5回	実習後指導および報告会(牧野、池野、南部) 実習後指導:実習後評価 サマリー提出および自己学習 実習報告会:パワーポイントにて実習にて経験した内容の プレゼンテーションを行う。発表はゼミ単位で行う。 臨床理学療法に関する実習後評価を行う。	6週間の臨床実習を反省的にと らえまとめる。(90分)	報告会でのアドバイスを基に実 習の再確認と知識の整理を行い 、サマリーの修正と再提出を行う 。(90分)
担当教員			
第6回	なし	なし	なし
担当教員			
第7回	なし	なし	なし
担当教員			
第8回	なし	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			
第10回	なし	なし	なし
担当教員			

第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			
第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習前評価と実習後評価に臨床実習指導者からの報告書を基に総合的に評価する。	

その他	0	なし
教科書		
「指定なし」		
参考文献		
「PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編」才藤 栄一 金原出版（購入済み）		
履修条件・留意事項等		
実習前オリエンテーション・学外臨床実習・実習報告会いずれも遅刻・欠席は原則認められないので注意すること。臨床実習Ⅴで学んだことが十分理解できていることが条件となります。足りない知識・技術を学び直すことを実習前指導学習の目標としてください。		
備考欄		